

2012年2月14日

私立大学図書館協会  
国際図書館協力委員会  
委員長 長島 敏樹 様

京都光華女子大学図書館	大原 佳世
甲南女子大学図書館	中岡 妙子
成城大学図書館	杉本 正武
同志社大学図書館	池口真梨子
東洋大学図書館	船津 幸子
立正大学情報メディアセンター	島田 貴司
立命館大学図書館	豊田 哲也
龍谷大学図書館	村上 孝弘

(大学 50 音順、8 大学 8 名)

## 2011 年度 海外集合研修報告

2011年12月4日(日)より12月11日(日)まで、2011年度海外集合研修に参加いたしましたので、別紙のとおりご報告いたします。

## I. 研修概要

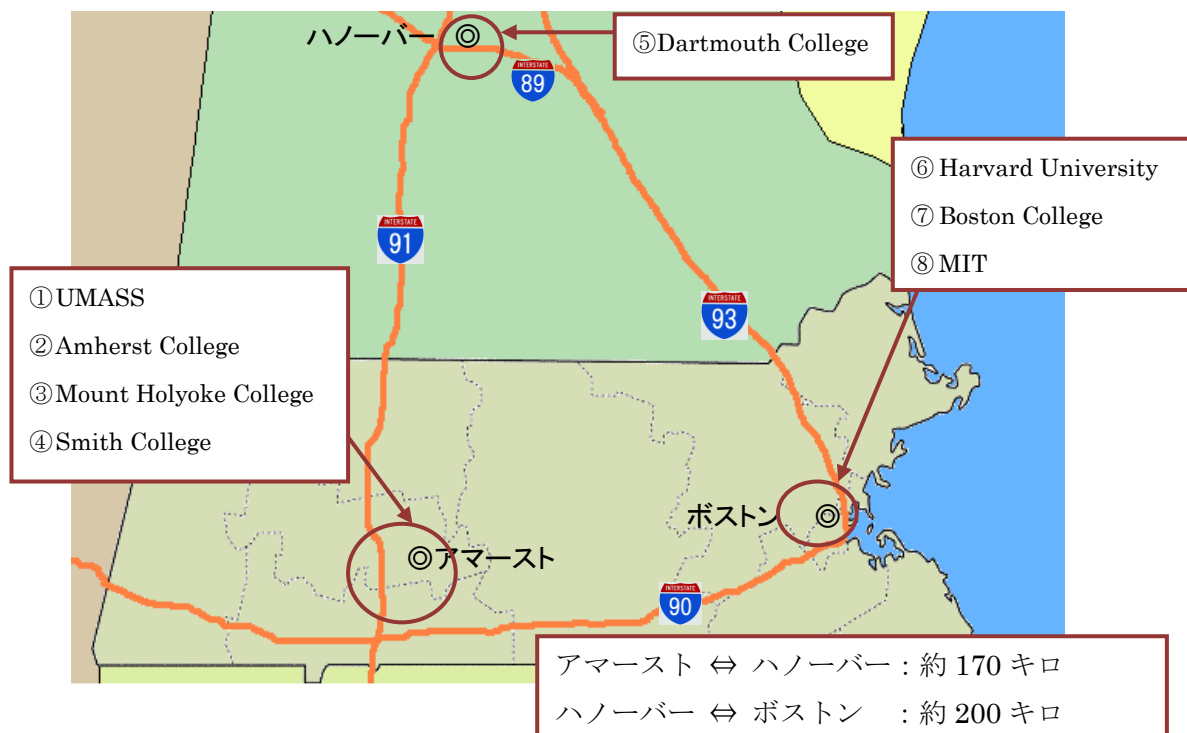
### 1. 研修テーマ

「米国のラーニングコモンズと伝統的な大学の図書館を巡る」

マサチューセッツ州等米国北東部にある様々な規模の大学におけるラーニングコモンズの企画・運営の具体的な事例に触れ、最新の取り組みなどの情報を得る。また、伝統的な大学の図書館にも訪問し、スタッフとの質疑応答を通し、図書館の運営体制・組織・サービスのあり方など参加者の所属図書館での実践的な課題設定や提案に結びつけるとともに図書館職員相互の国際的な人的交流を実現する。

### 2. 訪問大学

- ① University of Massachusetts Amherst(UMASS)
- ② Amherst College
- ③ Mount Holyoke College
- ④ Smith College
- ⑤ Dartmouth College
- ⑥ Harvard University
- ⑦ Boston College
- ⑧ Massachusetts Institute of Technology(MIT)



### 3. 研修日程

期間：2011年12月4日（日）～2011年12月11日（日）

1日目：12月4日（日）	12:45 成田国際空港出発 デトロイト国際空港経由 17:36 ブラッドリー国際空港到着
2日目：12月5日（月）	AM：University of Massachusetts Amherst PM：Amherst College
3日目：12月6日（火）	AM：Mount Holyoke College PM：Smith College
4日目：12月7日（水）	AM：Dartmouth College PM：ボストン市内へ移動
5日目：12月8日（木）	AM：Harvard University (Widener Library & Lamont Library) PM：Boston College
6日目：12月9日（金）	自由研究日（MIT等を各自訪問）
7日目：12月10日（土）	9:00 ローガン国際空港出発 デトロイト国際空港経由
8日目：12月11日（日）	17:25 成田国際空港着

## II. 事前準備

### 1. 事前説明会の開催

11月22日（火）慶應義塾大学日吉キャンパスにおいて、事務局から研修日程や諸注意等の詳細な説明を受けた。

### 2. 事前確認、打ち合わせ

説明会開催の際に初めて参加者全員が顔合わせを行った。担当業務、業務経歴等を自己紹介した後、今回訪問する大学図書館について各自1館ずつ担当を決め事前に概要を調査し情報交換をした。

### 3. 訪問先への質問事項リスト作成

参加者から各訪問先への質問事項を収集、調整してリストを作成し、出発前に事務局をとおして送付してもらった。

### 4. アンケート実施計画

訪問大学において、直接学生に図書館利用についてインタビューすることを話し合った。

時間的な制約を考慮し、出発前に質問内容をアンケート方式にして質問事項を整理した。

現地での実施方法・手段について話し合い、アンケート用紙を準備した。

なお、事務局に実施についての上承と現地では訪問大学の許可を得てから実施することを承諾した。

### Ⅲ. 研修報告

#### 目次

##### 1. 訪問機関概要

① University of Massachusetts Amherst	p. 4
② Amherst College	p. 8
③ Mount Holyoke College	p. 12
④ Smith College	p. 17
⑤ Dartmouth College	p. 22
⑥ Harvard University	p. 27
⑦ Boston College	p. 37
⑧ Massachusetts Institute of Technology(MIT)	p. 42

2. 今回訪問した米国図書館の特徴	p. 46
-------------------	-------

3. むすびにかえて	p. 48
------------	-------

4. 謝辞	p. 52
-------	-------

5. アンケート集計結果	p. 54
--------------	-------

## 1. 訪問機関概要

### ①University of Massachusetts Amherst

(日本語名：マサチューセッツ大学アマースト校)

訪問日：2011年12月5日(10:00~12:30)

#### <大学について>[1]

所在地	マサチューセッツ州アマースト
WEB ページ URL	<a href="http://www.library.umass.edu/">http://www.library.umass.edu/</a>
学校種別	4年制、州立 非営利、共学
与えられる学位	Associate's degree, Bachelor's degree, Master's degree, Doctor's degree
キャンパスの立地	ボストンから約140キロ離れた郊外
キャンパス寮	45寮で12,000人以上が寮生活
学生数	学部生：21,373人 大学院生：6,196人
学生教員比	19：1
大学創立	1863年

#### <概要>

1863年4人の教員と4軒の木造建築の建物と54人の学生から小規模な農業大学としてスタートした。1941年に施設規模や学生数が拡大、Massachusetts State University それを経て1947年にUniversity of Massachusetts Amherst が設立された。[2]

#### <図書館概要> W.E.B.Du Bois Library

##### 1. 24時間開館の図書館

広大なキャンパスには4つの図書館があり、蔵書数は360万冊を超える。その中のW.E.B.Du Bois Libraryはメインライブラリーであり、キャンパスの中央に空高くそびえたつ28階建て(27、28階は空調の機械室)のビルディングである。

大きな特徴は月曜日から木曜日は24時間開館である。金曜日と土曜日の夜は開館していない。半分以上の大学生が敷地内の寮で生活をしていることにも大きく関係する。約5000人の学生が1日に図書館を訪れる。

運営面では時間帯を決めて交代で正職員とアルバイトが勤務しているので、労働上の問題はないようだ。セキュリティに関しては夜中の12:00以降からはICカードを通し、入館することになっている。巡回を1時間ごとに行っており何か問題があれば、キャンパスポリスに連絡するシステムである。

##### 2. 飲食をしながら学ぶ学生

図書館を入館した正面にInformationカウンター、入って右側にカフェ(図1)があり、午後9:00ごろ来館したときは食料を買い出しする学生の行列を目にした。このカフェはとても成功していて、図書館の大きな収入源となっている。昨年は約50万ドルの収入を得た。今後、改装し、拡大される予定であ



図1 カフェ

る。日本の図書館と大きな違いは閲覧室で食事をしている人が多いことだ。バナナや洋ナシがデスクに置かれていたり、ランチボックスを持っている人もいる。そのために大きなごみ箱も設置され、清掃業者も雇用している。驚いたことに以前は Information カウンターまでピザの宅配が来たこともあったそうだ。

### 3. Commons (コモンズ) -アクティブな共有の空間-

今回の大きなテーマである Learning Commons の他 2 つの Commons(コモンズ)について述べたい。

#### (ア) Learning Commons (ラーニングコモンズ/LC と表記する)

LC は地下 1 階に 2005 年、設置された。目にするのは整然と並ぶ PC コーナーである。米国の空間の広さを物語っているのかモニターが大きい。PC もそれぞれ利用者の用途に対応できるようにソフトウ



図 2 オープンスペース  
ノート PC を利用している学生が多い

ェアの種類や容量が違うものがある。また、現在この建物は無線 LAN の環境が整っているので貸出用ノート PC は人気が高い。50 台を所持している。LC 開設時には PC の電源不足、電源の容量不足という問題が起こったそうだが、改修された結果、PC の利用環境が整備された。(図 2)

この階では形の違う椅子やデスクが並んでいることで、個々の学習スタイルに対応した自由な空間が作り出されていた。窓に向かって一人掛けのソファが並んでいた



図 3 グループ学習室

日本の多くの図書館と同様に、教員からの申込みを受けて、図書館員が対応する。

また、利用者が快適に過ごすことができる細やかな工夫が見られた。

携帯電話のブース (図 4) が LC は 2 か所ある。これは図書館の利用者のみならず、スタッフが電話をするときに個人情報など聞かれたくない場合に便利である。

文房具の自動販売機も設置されていて、必要な時には外に行かなくても購入することができる。

その他、様々なサービスを利用者に提供するセクションが設けられていた。

Learning Commons and Technical Support カウンターは LC を初めて使う利用者への最初の相談所であり、情報関係の問題の解決の窓口である。PC の操作でわからない時にはここへ相談に来る。

Reference Research Assistance カウンターには専門分野を担当するサブジェクトライブラリアンが



図 4 携帯電話のブース

交代で待機している。その奥には時間を費やすような複雑なレファレンスのために、利用者が座って落ち着いて話をできる部屋が設置されていた。

**Writing Center** ではチューターを配置して、論文作成の指導や留学生のサポートを行っている。チューターはこのセンターでサポートを行うための訓練を受けており適切なアドバイスを与えられる。

**International Program Office** は留学を希望する学生、受け入れた留学生へのアドバイスを行う場となっている。他部署の運営で、決められた時間のみスタッフがいます。

**Assistive Technologies Center** では障害のある学生のサポートを行っている。車いすに適した高さに可動するデスクや聴覚障害や発達障害に必要なソフトが用意されている。開館 24 時間中、スタッフの



いない時間があるが、その時はユーザー登録している利用者のみが使用できるから、該当する利用者にとっては安心だろう。必要な人に必要なものを提供することは重要である。

LC の形態にも様々あるが、この LC は、他部署が運営している **Writing Center** や **International Program Office** のようなセクションのコラボレーションでワンストップサービスが実現している空間だった。学生たちがこの LC に来る目的は多岐に渡り、様々なタイプの学習に利用していた。(図 5)

図 5 様々なサービスのコラボレーション  
上部のサインの数がサービスの多さを表す

#### (イ) Teaching Commons

LC は地下に位置していたが、それとは反対に **Teaching Commons** は図書館利用スペースとしては最上階の 26 階にある。2010 年に設置された。ここは教員のための部屋であり、他学部の教員とともに意見を交換して、新しい研究を行う場である。授業の準備などのプレゼンテーションのためのプロジェクターやスクリーンも備えており、いつでも利用できる。学生は入室できない。学際的な科目が注目されている昨今において、違った専門分野の教員同士が交流できるこのような空間は大変有効的である。

#### (ウ) Multimedia Commons

2013 年、3 階に **Multimedia Commons** が設置される予定だ。ワンフロアを 3 つのブロックに区切り、ビデオ作製のスペース、プレゼンテーションスペース、視聴覚スペースを予定している。新しいプロジェクトはアンケートや少人数のフォーカスグループなどの利用者のニーズを理解したり、他大学の事例を調査するところから始まり、必要な費用を収集する努力をしながら、現在進行している。

学生の卒論、その他の課題の形態が変わり、デジタルストーリーテリング (**Digital Storytelling**) の形で提出することが分野全般に増えている。デジタルストーリーテリングとはプレゼンテーションを撮影したり、取材した資料をドキュメンタリーにしてビデオなどのメディアを作成するというものだ。新しいタイプの課題を作成する上で、多くの学生たちが大学内で利用できる施設がなかったため、考案された。

#### 4. 他部署との連携

LC は他部署との連携なくしては考えられないスペースである。連携の難しさについては日本でも問題としてはあがっているが、米国も同様の問題をかかえている。そのために組織として交流を図る努力をしている。図書館には OIT (情報基盤センター) との調整役を担う大使のような仕事をするスタッフ

が配置されている。コミュニケーションを図る方法は次の通りである。①OIT との連携をするため月 2 回はミーティングを行う。②理事会などで LC についてのミーティングをして理解を得る。③図書館以外の部署運営の **International Program Office** や **Writing Center** などの行事にも参加する。④図書館の行事に他部署も参加してもらう。例えば、入学して 1 週間の最後の日にジェンガやその他ボードゲームなどを学生に行う図書館の行事があり、OIT も参加する。それによって、互いが顔見知りになったり、互いの業務やプロジェクトについて理解したりすることの助けになっているようだ。

また、説明会などはいつも食べ物を出して、気分を和ませる雰囲気づくりをした後、話をするのが通常の光景だ。

## 5. 図書館長懇談会

館長の **Mr. Jay Schafer** にこれからの展望やサービスについてお話を伺うことができた。

### (ア) 進歩する図書館

今後は図書に関してはデジタル化を行う一方、利用頻度の少ない図書はコンソーシアムの 5 大学の書庫に整理して、スペースをできるだけ確保していく方針だ。デジタル化の波は紙の本を減少させ、図書館が図書のある場所からさらに、さまざまな利用サービスを受けることができる、アクティブな施設へと変化することに間違いない。図書館は現在に至るまでに 3 回の改装を行った。図書館長は利用者のニーズに合わせて進歩し続けることが大切だということを主張していた。3 階に **Multimedia Commons** を設置することがまた一つの進歩であろう。

### (イ) 寄付

改修費用は頻繁に寄付でサポートされていることを実感した。予算内で納める日本的な発想ではなく、外部から集めてくるという発想に衝撃をうけた。また日本は図書館よりまず学校経営側への寄付が考えられる。その点も大きな相違点であろう。寄付を募ることもこの国では館長の重要な任務の一つなのだ。

### (ウ) 広報活動

図書館の広報活動は寄付を募るための広報であり、学生への広報ではない。そのため学外の人への広報には積極的である。図書館内にも広報部があつてホームページで常にニュースを発信したり、グッズやステッカーを作成したりしている。図書館内で学外の方用の PC やコピーカードの設置もあり、自由に出入りできる環境にあることも日本とは相違することだ。

### (エ) ネットワーク

広報して、寄付をいただき、新たな施設を作る、それで学生たちが勉強するすばらしい環境になることが卒業生や両親にとっては喜びになるそうだ。大学内部の部署同士の連携、外部の卒業生、保護者、近隣の方とのネットワークが利用者へのサービスを高めているのだろう。また、様々な方たちと連携し、成果を上げることができる場所が図書館なのだと実感した。

## 参考文献

[1]各<大学について>の出典 NECS (National Center for Education Statistics : 連邦教育省統計センター) を参照 <http://nces.ed.gov/>

[2]UMASS ホームページ <http://www.library.umass.edu/> (参照 2011-12-28)



## ②Amherst College

(日本語名：アマースト大学[1-1,2])

訪問日：2011年12月5日(15:00~17:30)

### <大学について>

所在地	マサチューセッツ州アマースト
WEB ページ URL	<a href="https://www.amherst.edu/">https://www.amherst.edu/</a>
学校種別	4年制、私立、非営利、共学
与えられる学位	Bachelor's degree
キャンパスの立地	ボストンから約140キロ離れた郊外
キャンパス寮	ある(ほぼ全ての学生が寮生活)
学生数	学部生：1,794人
学生教員比	9:1
大学創立	1821年(マサチューセッツ州では3番目に古い大学)

### <概要>

Amherst College (図1)は、アメリカ合衆国マサチューセッツ州西部の小都市アマーストにある全米で1、2位を争うトップレベルのリベラルアーツ・カレッジである。リベラルアーツ・カレッジとは大学形態の一種で、アメリカ合衆国においても最も伝統的な大学形態である。「敬虔で才能ある貧しい若者を教育する」ために無宗派の学校として設立された。ノーベル賞、ピューリッツァー受賞者を輩出しており、徹底した少人数教育で、全寮制をとることで知られる。学部のみで研究科はなく、学生は人文科学、社会科学、自然科学の3つの領域にわたってさまざまな科目を幅広く履修するとともに、主としてリベラルアーツ分野(専門職的あるいは技能的職業教育ではない学問的分野)を専攻する。日本とも関わりが深く、新島襄や内村鑑三の他、あの有名なウィリアム・スミス・クラーク博士が卒業している。Five College Consortium Amherst[2](5大学コンソーシアム)で近隣の大学と提携している。



図1 Amherst College 外観

### <図書館概要>

今回我々が訪問した Robert Frost Library (図2)は1965年開館の中央図書館である。他に理系図書館の Keefe Science Library、音楽関連図書館の Morgan Music Library、数学図書閲覧室である Olds Math Library、視聴覚資料図書館の Visual Resources Collection がある。Robert Frost Library に大部分の資料が収容されており、貴重書室もある(図3)。また、書庫スペースとして遠隔地に、より古い学術論文およびジャーナルが収容されている Amherst College Depository (アマースト大学書庫)と5大学の資料が収められている Five College Library Depository (5大学図書館書庫)があり、その資料も利用することが可能である。



図2 Robert Frost Library  
レファレンスカウンター



図3 Robert Frost Library 貴重書室

### <図書館の運営>

アマースト大学の図書館員の図書館と資料に対する発想は、学部生が約 1,700 名なので、少人数教育に徹した教育方針を確立しているという印象がある。レファレンスライブラリアンであり、蔵書構築(資料収集)コーディネーター(調整役)の Mr. Michael Kasper の話を以下に要約する。学生も教員も本を大切にしており、冊子体の資料が人気である。雑誌について、利用者は電子ジャーナルを使い慣れているが、冊子体と電子媒体の両方を購入している。図書について、昨今は電子ブックが多く出てきたが、まだ普及は遅れており、利用者も使い慣れていない。数年後には使えるようになると思うがそれまでは冊子体を買いつける方針である。つまり、どちらにしても冊子体を購入していくということである。

利用者が書架に入り、ブラウジングしながら探索して発見できるのが冊子体の素晴らしいところで、電子リソースの閲覧環境では、書架で連鎖的に関連する情報を見つけることと同等のことができる機能を持っていない。つまりリンクはあくまでサイト作成者の意図によるのであり自分で情報を見つけるのではないということである。Mr. Kasper は、実物の資料を見ながら情報を見つけることが大切で、冊子体はとても使いやすく、利用者のためにもよいと考えている。他の大学では、電子リソースを活用し、冊子体を遠隔地の書庫へ追いやって、空間を設けるといった発想が多い中、この大学では伝統的な発想を重んじていることが伺える。学生は、従来の図書館の使い方どおり、静かに勉強しており、その静かな場所(環境)を求めてわざわざ UMASS からやってくる学生もいるとのことだ。つまり、冊子体の資料がぎっしり置いてあり、閲覧場所があり、そこで静かに学習するという伝統的な図書館に対する学生のニーズもあることが伺える。

しかし、このように伝統的な運用方法を行ってきた図書館でも、旧態依然の運用で留まっているというわけではない。2012 年 1 月に新しくカフェができる予定で、1 階の館長室の前に予告の看板が設置されていた(図 4)。今回訪問した大学のうち、カフェがまだできていないのはここ Boston College だけで、ついにこの伝統的運用をしてきた図書館もカフェの設置というニーズに応えるといった感であった。情報探索(調査・指導)の主任である Ms. Missy Roser の話によると、新しい館長の目標は、



図4 Robert Frost Library  
カフェ設置予定場所

①Teaching：リテラシー教育において図書館員が中心となって、受身ではなく積極的な活動をする、②Digitalization：電子化。貴重書アーカイブ、デジタルコレクションなど。具体例として米国の女性詩人であるエミリー・ディキンソンの資料がある。③Open Access and publishing：インターネットで公開することにより必要な情報を手に入れることができるようにする。この三つであった。今までは、先に述べたような伝統的な発想に基づく運営をしていたが、館長や図書館員が新しくなり、これから改革されていくようである。

#### <図書館の施設、設備>

フロアは1～3階と地下に書庫があり、間取りの説明ではStudy spaces という研究ができるスペースとGroup spaces というグループでの学習室とCommemorative spaces という寄付された資金でつくられた記念のスペース（図5：この空間は卒業生の寄付でつくられた）に分かれている。階層ごとに静寂さの強弱を決める構想があり、1階はレファレンスや貸出のカウンターもあるのである程度声を出してもよく、カレント雑誌が置いてあるエリアでは、必要があれば講演会をそこで行い、柔軟に運用しているようだ。階層が上がると静寂さが増していき、2階はやや静か（必要最低限の会話をしてもよい）、3階はQuietest spaces として運用する予定である。今回訪問した各大学によってスペースの区分にはそれぞれ工夫があり、色で分けするところもあれば、Group Study Space、Quiet Study Space などサインで分けするところもある（Smith College を参照）。



図5 Robert Frost Library 閲覧スペース①

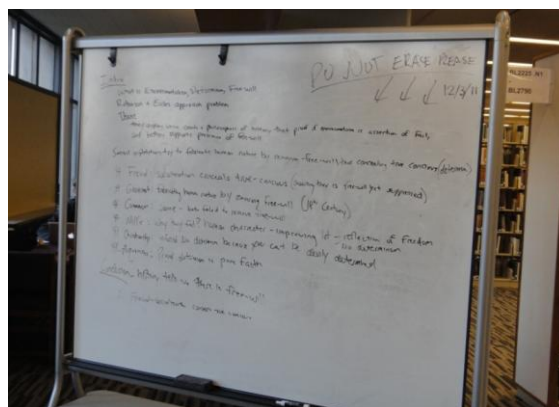


図6 Robert Frost Library 閲覧スペース②

また、昨今、ビデオを使ったデジタルストーリーテリング（Digital Storytelling）のプレゼンテーション課題が増えていることも影響しているのか、情報配信する課題への対応としてビデオ機材を購入している。また、レポート作成の際にグループ学習室を利用する代わりに、閲覧室の書架の近くにある机や椅子のそばに、ホワイトボードを設置して学習する試みなども行っている。このフロアではそうした光景がよく見られる（図6）。学生達が部屋にこもるのではなく、書架を行ったり来たりしてより多くの本を手にとって学習できる効果を狙っていると考えられる。書架の近くで学習することで、ブラウジング効果とグループ学習の両方を実現させようという取組であり、壁で仕切った場所に机や椅子を置くより効果的な学習スタイルを導く配置方法として見習うべき点である。

一方、チェスボードがおいてあるテーブルもあり、勉強に疲れた学生が息抜きできる工夫も見られた。閲覧スペースをつくるために、書架をなくしたり、見通しがよくなるように新刊雑誌の書架の高さを低くして圧迫感をなくしたり、徐々に変化していつているようだ。グループ学習室やキャレルデスクの近くに、借りた資料を入れておくための鍵つきロッカーもあり、4年生などが長期貸出を行った際に、家に資料を持って帰らなくても勉強できるように学習環境は整っている。



図7 Robert Frost Library Computers

地下には、PCが並んでいる広々とした部屋(図7)もあり、学生アルバイトがPCの利用に関する質問の対応をしている。

#### <その他>

今回は訪れなかったが、図書館とは別組織のサポートとして **Services for Academic Support**[3] というものがあり、個別指導サービスとして教員認定のチューターやピア・チューターによる個別相談のサービスを行っている。他にも **Academic Writing Services** として専門のライティングインストラクターによるライティング支援、英語を母語としない学生に対しての **ESL**、読解力要請、冬休み中の数学復習コース、図書館資料を使うにあたっての個別支援など様々な学生への学習支援体制が整っていることがうかがえる。特にライティング支援については手厚く、着手からアイデアの発展・体系化、テーマや議論の練磨、明快な記述、時間管理、長期計画、論文作成、その他ライティングにかかわる心配事などを総合的に相談できるようだ。さらに学生向けだけでなく、教員へのライティング支援も行っている。確固たる伝統と学習支援および新しい図書館への変容について、今後注目していくべき大学であろう。

#### 参考文献・脚注

[1-1] 日本語表記については、アーモスト、アーマスト、アムハーストなど色々あり、発音を重視した表記の場合アーモストかアーマストであるが、日本大百科全書の表記であるアーマスト大学に統一した。

[1-2] ”アーマスト大学”，日本大百科全書(ニッポニカ)，ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)，入手先<<http://www.jkn21.com>>，(参照 2011-11-28)

[2] 同じくマサチューセッツ州内にある近隣の **Smith College** (スミス大学)、**Mount Holyoke College** (マウントホリオーク大学)、**Hampshire College** (ハンプシャー大学)、**University of Massachusetts Amherst** (マサチューセッツ大学アーマースト校、文中では **UMASS**) の5大学。

[3] **Amherst College** ホームページ <https://www.amherst.edu/academiclife/support>, (参照 2012-01-18)

### ③Mount Holyoke College

(日本語名：マウントホリオーク大学)

訪問日：2011年12月6日（10：00～12：00）

#### <大学について>

所在地	マサチューセッツ州サウスハドレー
webページURL	<a href="http://www.mtholyoke.edu/">http://www.mtholyoke.edu/</a>
学校種別	4年生、私立、非営利、女子大学
与えられる学位	Bachelor's degree
キャンパスの立地	ノースハンプトンから約8kmに位置する
キャンパス寮	あり（学生の97%は寮住まい）
学生数	学部生：2,332人
学生教員比	9：1
創立	1837年

#### <概要>

米国を代表するリベラルアーツ系の女子大学で、東部の名門伝統女子大学で構成された”セブンシスターズ”の最初のメンバーである。女性ならではの視点により社会を変革できる高等教育を女性にも与えるべく創始者 Mary Lyon によって創設された。なお、キャンパス内の木に囲まれた静粛な場所にはその創始者の墓がある。

少人数教育に注力し、開講授業の82%は学生の受講者が25名以下である。学費は、寮費等込みで年間約53,600ドルとなる[1]。



図1 図書館外観



図2 図書館マスコットキャラクター

#### <図書館概要>

学生の97%はキャンパス内の寄宿舎にて生活をしており、図書館の開館時間は平日が原則朝8時より深夜2時までとし、試験期間のみ24時間開館としている。また、深夜の入館はセキュリティを考慮し午前0時以降は、利用者カードをゲート入り口にとおしての入館となる。授業の終了する夕方頃から夜の時間帯が最も人の出入りが頻繁とのこと。

館内は無線LANが完備されており、自分のPCの持ち込み学生も多い。

通常の開館時間は、月曜日から木曜日が朝 8 時より深夜 2 時までとなっている。週末にかけてはやや開館時間を縮小し、金曜日は朝 8 時より午後 10 時まで、土曜日は朝 9 時より午後 10 時までとしている。日曜日は翌日からの授業準備等のため朝 10 時より深夜 2 時までの開館としている。

館内の静寂さの度合いについては、以下の 3 つのゾーンで区分けされている。これらのガイドラインについても、図書館側が一方的に決定したのではなく、学生、教員、館員が協働して作成した。また、携帯電話着信音は常時サイレンス設定するように求められている。

- ① **Quiet Areas** : 個人の勉強、読書のためのスペースで、私語は厳禁。  
(stack floor の ○階と○階全域や、読書ルーム等)
- ② **Limited Talking Areas** : 勉強のためならば low-level の会話は許されるスペース  
(stack floor の △階と△階全域や、新刊図書コーナー等)
- ③ **Collective Areas** : 節度を保った程度の通常のトーンでの会話が許されるスペース  
人の往来が多く活気にあふれたゾーンでもある。  
(Information commons、MEWS (Mediated Educational Work Space=メディア学習室等))

#### <LITS : Library, Information & Technology Service>

Mount Holyoke College における図書館建物の特徴は 3 つの棟が統合された、いわば複合型図書館である。図書館 (Williston) を中心に隣接する二つの棟 (Miles Smith と Dwight) を三位一体で統合し、レファレンスルームと、インフォメーションコモنز、MEWS と呼ばれるメディア学習室の三機能を備える複合的な図書館として運営されている。

この LITS の一連のリノベーションは、教員、職員、学生をメンバーとする委員会が中心となり、利用者の利便性および、教育的方針の要望に応えられるよう、時代に合わせた展開がなされている。

また、図書館が学内で行き来しやすい立地にあることと、全学的に中立的な立場であることを象徴するように建物内には F D センターが設置されている。メンバーは教員を中心に構成されており、授業担当コマ削減の代わりに 3~4 年間程度の任期で担っている。図書館員はこのメンバーには含まれない。

キャンパス内にはこの複合的な図書館である LITS と、今回は訪問しなかった Music and Dance Library の 2 館がある。



図 3 インフォメーションコモنز風景



図 4 通路の廊下にある質問/回答用の白板

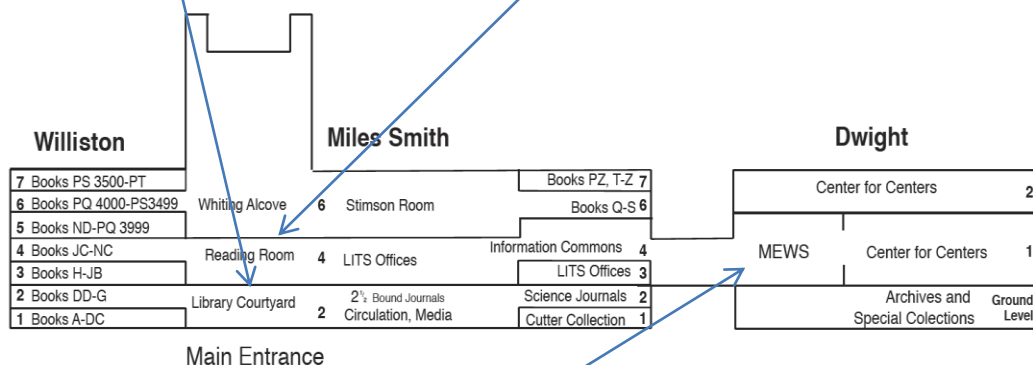
LITS : Library, Information & Technology Service (複合的な図書館) 風景



図5 エントランス付近のカフェ



図6 リーディングルーム



<MEWS : Mediated Educational Work Space> (図7,8)

高性能機材を備えた個人及びグループの積極的な学びを支援する学習室。ガラス貼り状の2つのグループ学習室(6~8人程度収容、PCと大型ディスプレイを装備)マルチメディア授業に対応した座席16席と壁掛け式プラズマディスプレイ2台を装備している。



図7 グループ学習室



図8 マルチメディア対応PC

<資料のデジタル化について>

学内全体の取組として、紀要等の学内で作成した出版物は、プリント版ではなく、デジタル版での作成を推奨している。それら各部署が銘々に作成した成果物をデジタル化する作業自体も図書館において多くを引き受けているため、館内に専用の作業スペースが設けられている。デジタル化する資料の優先

順位は、

1. Mount Holyoke College で作成したもの
2. Mount Holyoke College にしかないもの
3. 授業で使用する物
4. 文書館にあるもの

とのことであった。



図9 個人用キャレル

卒業論文提出を控えた4年生対象のキャレル。書棚に自分が使用する資料を置いたり、メモを貼り付けたり、ポスターを貼るなど、使用者が銘々に自分流にアレンジして学習空間を作っていた。

#### <ディレクターとの座談会>

“Collaboration”を重要視する学風に反映されるように、図書館全体の取組として、教員および学部との連携にも積極的に注力をしている。

学習支援の一環として、ライブラリアンが授業の準備段階から参入している。ライブラリアンが学生に課される宿題の内容をあらかじめ踏まえておいた上で、授業後に学生が来館した際には、要望を的確にキャッチし効果的な指導を与えている。各学部には“Liaison”と呼ばれる学部と図書館の橋渡し役を担う仲介者が配置されており、学部内から図書館への誘導を行い、当学生にとって最適な担当ライブラリアンを紹介することで学習の深度を深める手助けを行っている。

また、近年ではリサーチヘルプデスクに質問をしに来る学生の数は減少傾向にあり、逆に教員からの要望もあり、この授業後に行われるライブラリアンによる個別リサーチ指導の方が増加しているとのことであった。同様に、個別の「〇〇データベース講習会」を開催することも少なくなっており、学生の勉強に直結したこの方法が効果的なようである。

一方で特に勉強意欲が旺盛な学生に対しては、予約制の“リサーチアポイントメント制度”を導入し、ライブラリアンが1対1で丹念に資料探し等の学習支援を行い、勉強意欲の更なる向上に働きかけている。

将来的な構想としては、新入生が各々の専攻を決定する段階までライブラリアンが個別に手助けを行うことも具体的に検討している等、意欲のある学生をマンツーマンで手助けしようとする面倒見のよさが垣間見られた。

学生からの質問対応方法としては、リサーチヘルプデスクの他に、質問/疑問に適宜回答ができるように、e-mail、チャットによる質問/回答方法も提供している。また図書館関連の全般的な質問専用eメールアドレスが1つ設けられており、学生は最初の段階では、該当のサブジェクトライブラリアンに直接問いかけなくても、内容に応じて図書館側でもっとも適当な担当者に振り分けてもらえる。

また学生の成長のために、図書館員の心構えとしては、求めている答えを即座に与えるというよりも、むしろ、「魚の釣り道具を与える」つまり答えを出すまでの過程、最適な情報収集の方法や、卒業後も



見据えた考え方を教えるスタンスで臨んでいるとの説明があった。前述の MEWS 導入直後には、学生同士で使用方法についての悶着が起こり、ライブラリアンに明確な使用方法の策定を求められたが、その際にもあくまでも学生同士の対話を基にプランを作成させ、図書館側は学生の協同作業を積極的に支援する立場としていたようだ。

学部や教員との連携や、組織改編に伴う情報基盤センターとの合併等の様々な“Collaboration”を経て現在まで発展してきた当図書館だが、いずれも最初から順風満帆にスタートしたわけではなく、お互いの信頼関係構築には時間と労力を要したとのことであった。

お互いの目的が似通っている場合、例えば図書館のレファレンスライブラリアンと、情報基盤センターのテクノロジーインストラクター（パワーポイント等のソフト使用方法を教える職員）の両部署が、一つに合併したように、両者が共通のゴールを向くことができると、歩調を合わせながら協力体制をとっていくことが容易なようである。

現在でも、情報基盤センターとは毎週合同ミーティング定期的実施し、お互いの情報交換を行いながら円滑な関係を維持しているとのことであった。

今後はライブラリアンを含む職員どうしの協力体制の強化のために従来の仕事スペースとしての個人部屋はなくし、広いオフィスでお互いコミュニケーションが取りやすいよう工夫がなされる見込みだそうだ。

確かに、もともとお互いの連携が順調に行っているならば統合も可能だが、そうでない場合は統合してもよい結果は望めない。部署間または個人間においても信頼関係や協力関係を築くのにはそれなりに長い時間や忍耐力を要するのは、米国も日本もそれほど大差はない印象を受けた。

#### 参考文献

[1] Mount Holyoke College ホームページ <http://www.mtholyoke.edu/lits/index.html>

(参照 2011-12-28)

#### ④Smith College

(日本語名：スミスカレッジ)

訪問日：2011年12月6日(14:00～)

<大学について>

所在地	マサチューセッツ州ノーサンプトン
WEB ページ URL	http://www.smith.edu/
学校種別	4年制、私立、非営利、女子大学
与えられる学位	Bachelor's degree, Master's degree
キャンパスの立地	ノーサンプトンのダウンタウンから徒歩5分
キャンパス寮	あり(36の学生寮)
学生数	学部生：2,588人 大学院生：525人
学生教員比	9:1
大学創立	1875年

<概要>

米国の宣教師 S.Smith の遺志により、マサチューセッツ州ノーサンプトンに設立された。東部の名門女子大学7校(セブンシスターズ)の一つである。女子に男子と同等の高等教育を授けることを目的として開設された。専攻分野は工学、教育学、英語学・英米文学、リベラルアーツ、生物学・生物医科学、物理学、心理学等幅広い。リベラルアーツの女子大としては米国で唯一、工学を専攻できるのが特徴である。また、約3割の卒業生が、卒業後1年以内に大学院に進学する。学費は授業料、寮費、食費含めて年間53,190ドルである。



図1 [1]Smith Collegeの風景①



図2 [1]Smith Collegeの風景②

<図書館概要>

Smith Collegeには、中央図書館である Neilson Library、専門図書館である Hillyer Art Library、Josten Performing Arts Library、Young Science Library の合計4つの図書館(図3[2])がある。今回我々が訪問した Neilson Library の通常の開館時間は月曜日から木曜日は7時30分から深夜1時、金曜日は7時30分から21時、土曜日は10時から21時、

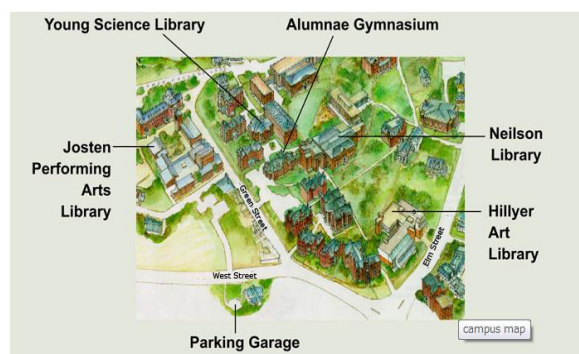


図3 [2]Smith Collegeにある4つの図書館

日曜日が 10 時から深夜 1 時までであった。大学内に寮が整備されていることもあり、日曜日は翌週月曜日からの授業準備や試験勉強をする学生が遅くまで図書館を利用しているようだ。

#### <館長懇談会>

今回の訪問で、館長の **Mr. Christopher Loring** と懇談会を行う機会を得た。

2000 年に館長に就任した際に提案した図書館改善のためのマスタープランでは、図書館は単に資料を保管するだけでなく、サービスを提供するために存在すると位置づけられていた。サービスの中には当然資料の提供も含まれており、加えて、より快適に、また集中して読書や学習するための環境整備、人的支援等も含まれている。このプランは理事長の理解を得たが、教授会では反対の意見もあった。プランを実行するための予算を確保するためには、学生、教員といった大学構成員全体の理解が不可欠である。マスタープランの説明や施設改修、新たなサービスの導入を行う際に、館長が特に意識したことは、ビジョンを明確にし、そのビジョンを実現するために、こういったサービス、設備が必要であるという論理展開を行うことであった。また、ハーバード大学や他大学の図書館長や専門家に、今後の教育や大学図書館のあり方をテーマに講演してもらうことで、学内の理解を深めることも計画されている。

この 10 年間で学生のニーズを踏まえ、Neilson Library の 1 階と 3 階が改修された。さらに、数学・物理・化学等のサポートを行う **Number Center** を設立し、図書館内にて学生が学生を指導する仕組みを取り入れた。前述の通り、**Smith College** には理工系の専門図書館である **Young Science Library** があるが、人文系の学生にも数学的な分析は必要なスキルと捉え、あえて誰でも利用できる、中立性の高い **Neilson Library** に設置するに至った。残念ながら、**Writing Center** を図書館内に設置する提案は、図書館内に設置する意義について全構成員の理解を得られず、実現できなかったようだ。(大学内には設置されている。) また、リラックスして過ごせる快適な読書空間が欲しいという 10 年前のフォーカスグループインタビューでの意見に応える形で、2010 年によく卒業生からの寄附の積み重ねによって、Neilson Library 入口すぐの空間に **Friends of Reading Room** (図 4) を設置することができた。

現在は中央図書館の **Neilson Library** と各専門図書館(分館)を大学全体でどのように活用していくかが検討されている。現状では、専門図書館は利用者が限られているが、その専門性を活かし、より多くの利用者が活用できる空間に展開していきたいと目標を設定されていた。

最後に、館長との懇談会で最も印象に残っているフレーズを挙げる。館長は“**The Smith College Libraries are intellectual crossroads for the Smith College community.**”と言われた。すなわち、図書館は学生と学生、学生と教員等が出会う「知的交差点」だということである。この表現は理事長や学長、教員と話をする際に、図書館のコンセプトを伝えるために使われたとのことである。日本においても図書館が知の象徴として、より一層教育や研究に貢献していく必要性を強く感じた。

#### <館内施設見学>

**Neilson Library** は 1 階から 3 階の 3 フロアで構成されている。入館して向かって左手には卒業生の寄附金によって作られた **Friends of Libraries Reading Room** (図 4) がある。部屋の照明はやや暗めで、さながら五つ星ホテルのロビーのような、高級感漂う非常に落ち着いた雰囲気であった。ソファが壁際と中央に置かれており、学生はリラックスした姿勢で読書や PC



図 4 **Friends of Libraries Reading Room**

での作業に打ち込んでいた。

館内のスペースは **Group Study Space** と **Quiet Study Space** に分けられており、学生は学習目的に応じて使い分けることができる。また、ここがどういった空間なのかを視覚的に理解できるように、**Group Study** は赤色のサイン、**Quiet Study** は青色のサインというように工夫されている点も素晴らしかった。**Group Study** の空間には様々な形態があった。例えば、円形のテーブルの周りに可動式の椅子と小型ディスプレイが設置されており、2人から4人のグループ学習ができる空間（図5）や、固定型の机、可動式の椅子、大型ディスプレイ、大型ホワイトボードが設置されている空間（図6）もあり、グループディスカッションの中でも更にそれぞれの用途に応じて使い分けることができる。図6のホワイトボードにはブレインストーミングが行われた形跡もあり、学生が積極的に利用している様子が伺える。



図5 Group Study Space①



図6 Group Study Space②

さらに、個人学習用の空間も非常によく整備されていた。図7や図8は **Group Study Space** 内にあった設備ではあるが、主な利用目的は個人学習であると考えられる。図7では、隣の机との間に仕切りがあるため、周りを気にせず集中して学習できる環境である。机にはPCが備え付けられているが、机の幅に余裕があるため、ノートや参考書などの資料を広げながら学習することもできる。また、図8では、**Friends of Libraries Reading Room** ほどではないが、落ち着いた雰囲気の中で、リラックスして読書ができる。備え付けられているソファも暖色系のオレンジ色と自然を思い起こさせる柔らかい黄緑色で統一されており、そういった細かな心配りにも感心させられた。

一方、**Quiet Study Space** の一角では、机が個人用に完全に独立して並べられているコーナーがあり、より集中して学習したいときに効果的である。また、木製の重厚な机、椅子が並べられているコーナー（図9）は部屋自体がガラス張りで区切られており、出入りするにはドアを開閉しなければいけない。その仕切りがあることによって、図9の部屋が学習に適した静寂な



図7 Group Study Space③



図8 Group Study Space④

雰囲気醸成していた。机に仕切りはなかったが、スタンドライトが備わっており、椅子同士も余裕をもって並べられているので、周りがそれほど気にならないように感じた。

同フロアの奥には、館長との懇談会でも紹介された **Number Center** があった。(図 10) 我々が訪問した際に、ちょうど学生チューターが講師として、おそらく数学・物理・化学等が苦手であろう学生に対して指導していた。同じ学生同士なので、学ぶ側もよりリラックスして学習しているようで、講師の学生に対して気軽に質問している光景も見られた。



図 9 [3]Quiet Study Space

Photography courtesy from Smith College



図 10 Number Center

Neilson Library の貴重書コーナーである **Mortimer Rare Book Room** (図 11) には貴重書と文学作品の原稿があり、それらは楔形文字の刻版から現代芸術家の著作まで全ての時代の作品を含んでいる。そのような貴重な資料を保管している部屋ではあるが、**Smith College** では、貴重書は公開するため、つまり、学生に触れてもらうために存在していると考えられており、在学学生であれば、閲覧することが可能となっている。また、**Mortimer Rare Book Room** にて、教員が実際に貴重書を使いながら授業を行っている。(図 12) このように、現代に生きる学生が貴重書を通じてそれぞれの時代の歴史を肌で感じられる機会が常にあること、またその素晴らしい考え方に感銘を受けた。



図 11 Rare Book Room①



図 12 [3]Mortimer Rare Book Room②

Photography courtesy from Smith College

Neilson Library では、学生の学習環境をより快適にするため、また利用目的に応じて空間を使い分けられるよう、適切にゾーニングされていた。近年日本でも大きく注目されているラーニング・コモンズの空間、すなわち可動式の机、椅子、液晶ディスプレイ、パソコンの設置等を行い、学生の知識創出の場を整備しているのは勿論のこと、あわせて個人学習の空間、知識習得の場も快適に、また集中でき

るように工夫されていた点が最も印象に残っている。伝統的な雰囲気を残しながらも既存の施設を改修することで、現代の学生のニーズに応えようとしている姿勢は日米で大きな違いはないと感じた。大学図書館は知の象徴であり、「学習・研究」のための施設である。Smith College の訪問を通じて、ラーニングコモンズに代表される協同学習空間と従来から大学図書館が提供している個人学習空間の両方において、利用者の学習意欲が高まる空間を創り上げることの重要性を改めて学ぶことができた。

#### 参考文献

- [1] 図 1、2 Smith College ホームページ <http://www.smith.edu/>より引用 (2011-12-28)
- [2] 図 3 Smith College ホームページ <http://www.smith.edu/libraries/info/directions/map.htm>より引用 (2011-12-28)
- [3] 図 9、12 Photography courtesy from Smith College (2012-2-18)

## ⑤Dartmouth College

(日本語名：ダートマスカレッジ)

訪問日：2011年12月7日(9:00~12:30)

<大学について>

所在地	ニューハンプシャー州ハノーバー
WEB ページ URL	http://www.dartmouth.edu/
学校種別	4年制、私立、非営利、男女共学
与えられる学位	Bachelor's degree, Master's degree Doctor's degree - research/scholarship Doctor's degree - professional practice
キャンパスの立地	ボストンから約150キロ離れた郊外
キャンパス寮	ある
学生数	学部生：4301人 大学院生：1893人
学生教員比	8：1
大学創立	1769年

<概要>

Dartmouth College は、アメリカ合衆国北東部にある名門私立大学8校の総称である、アイビーリーグにその名を連ねているということもあり、広大な土地に歴史ある建物群とその雰囲気を壊さない景観からカレッジが構成されている。その中心に存在しているのが、今回私たちが訪問した Baker-Berry Library (図1) である。図書館のホームページにも“Baker-Berry



図1 Baker-Berry Library を望む

Library sits at the heart of the Dartmouth College

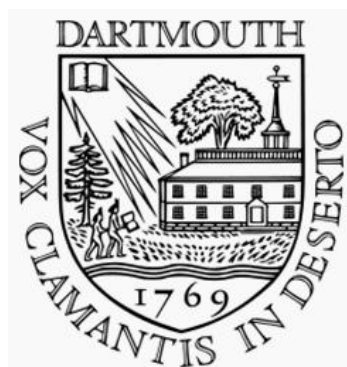


図2 Dartmouth College の校章

campus and is the most

recognized icon of the College.” [1] (ベーカー・ベリー図書館はダートマスカレッジキャンパスの心臓部に位置し、カレッジの最も認められた象徴となっている)と説明されている。また、カレッジの校章(図2)にも、本(聖書：知識・学習の源)が描かれており、知の源としての資料の重要性が設立当初より連綿と受け継がれてきていることが示されている。

1928年に Baker Library として建設された図書館は世界遺産にもなっているフィラデルフィアの独立記念館を模してつくられたものとなっている。その後、蔵書の増加とともに増築を重ねていき、2000年には大規模プロジェクトとして Baker Library と書庫を取り囲むように新しい図書

館を新設、寄贈者の名前から Berry Library と命名され、既存の Baker Library と行き来を可能にし、Baker-Berry Library として現在に至っている。長い歴史を経てきた図書館ということもあり、240万冊の蔵書、2万4千点のフィルムやビデオ、19万2千点の地図、3万8千点の音源、45万点の写真、2万5千699点の原稿やアーカイブや、36万8千冊以上の電子ブック、7万2千点の電子ジャーナルやデータベースが利用できる。今回訪問した他の大学図書館と同様、テスト期間中は24時間開館をして

おり、学生が勉強できる環境は整っている。

### <多彩な環境>

立地的な面と、使われているスペースの傾向から、**Baker Library** が図書館の顔として位置し、「伝統的な図書館」としての役割を担っている。1階正面入り口(図3)を入ると広いホールになっており、数年前まではただの通路であったところにソファーやテーブルを配置することで人々にくつろげる場所を提供し、学生たちの出会いの場を創造した。ここは、ライブラリアンも打ち合わせに利用しているとのことだった。ホールに寄り添うように新たにカフェ(図4)が新設されたので、カフェで買った飲み物や食べ物と一緒に学生や教職員がくつろぐことができるようである。また、ツアーの最中に「学生が図書館に来て友人や知り合いが同じく図書館で時間を過ごしていることを確認できることが大切である」という話を聞くことができた。ただ最新の設備を提供するだけでなく、人が集い、友人を見かけることができるということだ。デジタル的な技術や機器が重視されがちだが、大切な場所としてのアナログな人と人のつながりも重視していることがうかがえて意外に感じながらも安心するところがあった。1階には歴代学長の



図3 Baker Library 入口ホール

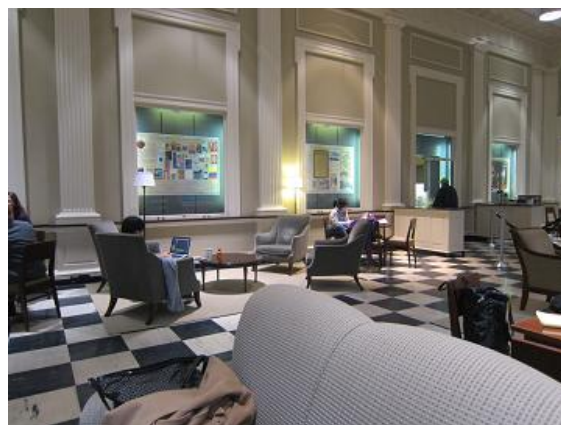


図4 Baker Library 入口ホールとカフェ  
(右手奥)

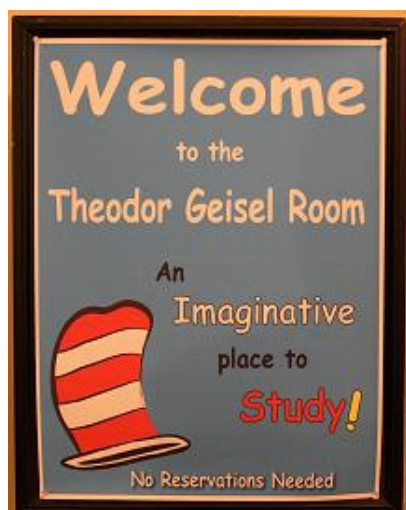


図5 Theodor Geisel Room  
入口の掲示

(Theodor Geisel Room) (図5) も存在していて、学生は自由にその部屋を使うことができるようになっている。地下1階では閲覧室のそれ自体が美術館かと思わせるような、壁面全体をメキシコの画家(メキシコルネッサンスといわれる壁画運動の巨匠)であるオロ

肖像や大学の変遷といった大学の歴史を見ることのできる部屋や、教員育成のためのFDセンターとしての機関(Dartmouth Center for the Advancement of Learning: DCAL)が配置されている。DCALには、ライブラリアンや情報基盤センターからもメンバーが選出されていて、専任のライブラリアンも常駐しており、各部署の緊密な連携が伺える。また、Dartmouth Collegeの卒業生で、The Cat in the Hat シリーズなどで欧米ではとても有名な絵本作家であるドクター・スース(Theodor Seuss Geisel)の作品や肖像画が展示されている部屋



図6 オロスコによる壮大な壁画



スコ (José Clemente Orozco) によって描かれた壮大な壁画 “The Epic of American Civilization” (アメリカ文明の叙事詩:1932-34 制作) (図 6) を見ることができる。正確な数字は不明だが、約 30~40 メートルはあるかと思われる壁面いっぱいにオロスコによるダイナミックなアメリカ文明が展開されている。2 階には「伝統的図書館」の名にふさわしい、連綿と学生たちに利用されてきたであろう閲覧室 (図 7) が設けられている。中央に配置されたテーブルを取り囲むように配置された木製の書架には、Baker Library 正面の広場に面した窓から取り込まれる自然光と明るすぎない室内の照明が閲覧室の落ち着いた雰囲気演出している。Dartmouth College のカレッジカラーである緑を基調とした椅子やソファやデスクライトも学生にとって静かに読書や勉強、リラックスするには最適の環境を提供している。Baker Library にはこのように、絵本に出てくるキャラクターのそばで勉強するのか、大迫力の壁画に囲まれて勉強するのか、木製のテーブルと椅子やソファで統一された落ち着いた閲覧室で勉強するのか、利用者は自由に選択することができる。

一方、Berry Library は、2000 年に Baker Library に併設される形でオープンしており、図書館全体が木綿工場をモチーフとしたモダンな作りになっている。学習スペース (図 8) やライティングセンター、レファレンスデスク、テクニカルサービスといった機能が配置されており、機能的な役割を担っている。膨大なマイクロフィルムから最新のデジタル機器を取りそろえ、学生や教員がグループでデジタルプレゼンテーションの準備ができる Jones Media Center (2 階) (図 9) といった施設もこちらに用意されている。また、1 階に現在計画されているグループ学習スペースなども含めて、昨今ニーズが増えてきている ICT を使ったグループ学習や授業や成果物への対応を進めているところである。ライティングのサポートも行っており、RWIT (The Student Center for Research, Writing and Information Technology Center) という名称で 1 階部分に配置されている (図 10)。こちらは、ライティングセンターと情報基盤センターと図書館の 3 部署が協力して学生チューターを育成し、一般学生をサポートしており、年々学生の要望が増えて複雑化しているとのことだった。

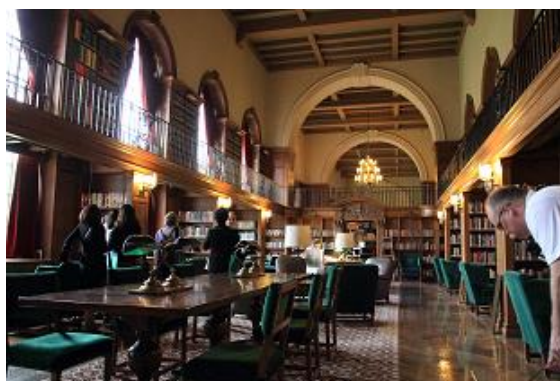


図 7 Baker Library 2 階閲覧室



図 8 Berry Library 1 階閲覧室



図 9 Jones Media Center



図 10 グループ学習スペースでライティングサポートが行われている

Baker Library 側にもカフェが設置されており、匂いのきついものでなければ飲食物も図書館に持ち込み可能になっている。外部の一般利用者が図書館を利用することができるが、年間 100 ドルを支払わなければならないと利用できない。しかし、一般利用者に対して専門のライブラリアンが存在しているといったサービスを保障している点はそれだけの価値があると言えるだろう。

<ラーニングコモンズの要素について>

今回、図書館のツアーをサブジェクトライブラリアンの Ms. Nien Lin Xie と電子メディアと図書館のテクノロジーチーフである Mr. Anthony Helm に行っていただき、更に図書館長を含んだ図書館管理部のライブラリアン 5 名と面談させていただき幸運を得た。そこから、2005 年に現在の図書館長が就任し、続いて 2009 年に韓国系の学長が就任したことで、Baker-Berry Library を利用者にとって利便性



図 11 Baker Library 側に新設されたカフェと教員による著作本（画面右側の棚）

の高い施設へと変貌するきっかけになっていることがわかった。既にグループ学習エリアやライティングサポートなどの機能は用意されている段階で、2010 年 2 月に調査・提出され、Mr. Helm も作成の中心メンバーとして携わった“Library Learning Spaces Study Group Report”によれば、Baker-Berry Library 内の 6 か所を新たに改善する場所として挙げている。その中に今回、見学した Baker Library 1 階入り口のホールや Baker Library 側に設置されたカフェ、これからリフォームが予定されている Berry Library 1 階のグループ学習エリアやレファレンスデスクとインフォメーションデスクの

統合、更にはジョーンズメディアセンターでのプレゼンテーションのためのエリアやビデオ会議システムの設置などが含まれている。Baker Library に設置されたカフェは Baker Library と Berry Library のつなぎ目に位置しており、もともと、新着雑誌などを閲覧できるエリアだった場所を人の行き来に着目し、カフェとしてリニューアルした。図書館での滞在をより快適なものにしつつ、あまり人の目に留まることのなかった教員の著作本展示スペースをカフェに移動し、人の目に留まるようにすることで様々な効果をあげている（図 11）。Berry



図 12 グループ学習エリアの告知

Library 1 階に 6 部屋設置予定のグループ学習エリアには完成イメージはもとより、図面や使用する調度品や壁などの材料といった計画内容が詳細に利用者に公開されており（図 12）、利用者にとっても完成を期待させる掲示がなされていた。一方でライブラリアンの能力向上を目指したプログラムも開始されている。2011 年より LALI (Librarians Active Learning Institute) というプロジェクトで、アクティブラーニングについて手法などを学ぶ講座を順次、行っていくということだった。教員に対して始まったこのプロジェクトをライブラリアンにも適用していくことでただ単に設備だけを充実させるのではなく、人員も充実させていくという方法は図書館の機能とサービス全般、特に、これから多くの大学図書館でラーニングコモンズの要素の展開をさせていく上で当然必要であることなので、日本の大学図書館でも大いに学ぶべきところだろうと痛感させられた。

### <図書館長懇談会>

今回、訪問した大学の中で最も図書館が情報基盤センターやライティングセンターといった他部署との連携を円滑に行いながら効果をあげられている成功例はここではないかと思えた。今までの図書館の良い面を残しつつ、新しい技術やデジタル化に対する対応もできているように感じられたからである。図書館長を含む図書館管理部の5名のライブラリアンとの面談

(図13)でも、近年の図書館の役割の変化にとまどうよりも楽しんでいるかのような回答は心強いものを感じた。また、卒業生などからの寄付金が大学にで

はなく大学図書館に直接あることで、経済の失速による影響はあるものの、地道に改善計画を実行できている。それに加えて、大学のマスタープランの作成に図書館管理部のライブラリアン全員がリーダーまたはメンバーとして関わっている。更に図書館長が学部長と同等の立場であること、ほとんどのライブラリアンが教員と同等の立場で教授会にも出席できる権利をもっている。これらの事実は、大学にとって図書館こそが「大学の心臓部」という認識が浸透していることを裏付けており、羨望の思いを感じないわけにはいかなかった。日本でも制度は違うが、大学における図書館が「人々の行きかう交差点の中心点」に物理的にも精神的にも位置づけられるよう、努力していければという感慨を抱いた。



図13 図書館管理ライブラリアンとの面談

### 参考文献

[1]Dartmouth College ホームページ <http://www.dartmouth.edu/~library/bakerberry/>,  
(参照 2011-12-28)

## ⑥Harvard University

(日本語名：ハーバード大学)

訪問日：2011年12月8日(10:00~12:00)

<大学について>

所在地	マサチューセッツ州ケンブリッジ
WEB ページ URL	http://www.harvard.edu/
学校種別	4年制、私立、非営利、共学
与えられる学位	Associate's degree, Bachelor's degree, Postbaccalaureate certificate Master's degree, Post-master's certificate Doctor's degree-research/scholarship Doctor's degree-professional practice
キャンパスの立地	都市(中規模)
キャンパス寮	あり
学生数	学部生：10,265人 大学院生：17,329人
学生教員比	7：1
大学創立	1636年

<概要>

Harvard 大学は米国東海岸の都市ボストンに隣接するケンブリッジ市にある。1636年に開学し、米国最古の大学とされている。イギリスからニューイングランドに移住してきたピューリタンが、上陸して17年目の1636年に「学問を進め、これを子々孫々に不朽に残し、将来教会が無学の牧師に任せられるようなことがあってはならない」との信念のもと設立。最初の寄付者 John Harvard (1607-38, 図1)の名をとって Harvard College と名付けられた。1980年代以降のハーバードは学部課程の男子を対象とする Harvard College、女子学生の学部課程教育を担当する Radcliffe College (Harvard College と教授団やカリキュラムは共有するが、独立した機関)の上に、学術大学院として文理学部をはじめとして、経済、デザイン、神学、歯学、医学、教育学、政治行政学、法律学、公衆衛生学などの大学院レベルの専門職系学部をもつ総合大学となっている。なお、99年 Radcliffe College はハーバードに正式に吸収合併され、Radcliffe Institute (ラドクリフ高等研究所)が開設された。[1]



図1 ジョン・ハーバード像

<図書館概要>

世界の大学図書館を形作っている Harvard の図書館組織は70以上の個別の図書館からなり、1680万冊の図書、1580万のデジタルファイル、10万タイトルの雑誌、800万の写真や概算で4億枚に上る原稿へのアクセスを保證する幅広いサービスを提供する1,000人以上の専任職員が運営している。

## <訪問館 1>

### Widener Library

#### <ゲートと柵に囲まれた Harvard Yard>

ボストンの市街地から地下鉄で数駅のところに Harvard 大学は位置している。まさに街全体が大学という立地である。地下鉄から地上に出ると、すぐに大きな Widener Gate が目に付く。今回訪問した他の大学には、大学と街路の境界に柵というものがなかったが、Harvard 大学には頑丈で高い柵が張り巡らされている。Widener Library のある Harvard Yard も堅牢な門と柵の中にある。各門には警備の係員が複数名立ち、何やら物々しい感じである (図2)。Widener Gate のところで、同大学ロースクール図書館の本宿マリ子さん、NCC (北米日本研究資料調整協議会) 専務理事の Ms. Victoria Lyon Bestor、大畑巧さん (同協議会バイリンガルアソシエイト) の3人の方がお待ちしております。



図2 Widener Gate



図3 Harvard Yard を占拠するテント

大学への入構にはIDカードが必要であり、各自パスポートを詰め所で提示して入構することになる。後で判明するのだが、構内の一角では“OCCUPY HARVARD”と記された横断幕を掲げたテント村 (10張程度) が設置されていた。これは今米国ではやりの「反格差社会運動」の一つであろう (図3)。同様のテント村はUMASSでも確認できた。翌日に訪問したYenching Libraryで聞いた話では、このテント村ができてから入構チェックが厳しくなったとのことである。世界のエリートを養成する最高学府へいよいよ我々は足を踏み入れた。



図4 Widener Library 正面

#### <“Harvard Library System”の拠点>

図書館を見学するに際して、先ず注意されたことが「図書館の屋内は撮影禁止」ということである。外観は写真のように壮麗なものであるが、屋内もまさに贅を尽くした豪華な意匠となっており、Harvard大学のホームページから引用した写真も使って以下に紹介する。

全長 80 km に及ぶ本棚に 350 万冊の蔵書を誇る Widener Library (Harry Elkins Widener Memorial Library, 図4) は Harvard 大学の旗艦図書館で、地上6階、地下4階のほぼ正方形の巨大な建物で、入り口のある正面はギリシャの神殿を思わせる大きな柱が立っ

ている。建物の東西の棟がメインの書庫となっていて、セキュリティゲートを通り抜けて入館すると正面に大きな階段が目に入る。この階段を上った所に、この図書館の名前の由来となった Harry Elkins Widener (1907年卒業後、1912年のタイタニック号の事故で亡くなる。非常に熱心な稀少本のコレク

ターだった息子の思い出に彼の母親が寄付をして建てられた。)の書斎がある。

Widener Library は 1915 年のオープン以来最も大きな変化の中で新世紀を迎えた。1999 年から 2004 年に建物は蔵書の長期的な保管と安全を確保するためと利用者のスペースを増やすために大幅な改修を行った。空調管理、照明、電気系統、消火、セキュリティーシステムに加えて 2 つの新しい閲覧室と職員のワークスペースを作り、以前の職員スペースは後援者用に充てる改修をおこなった。ライトコート部分にできた閲覧室 Phillips Reading Room では、書庫に入ることができない一般利用者が取り寄せてもらった資料を一時的に閲覧したり、館外に持ち出すことができない大型の資料や取扱いに注意が必要な資料を 10 日間この部屋に取り置き閲覧できるサービスを行っていた。閲覧スペースには取扱いに注意が必要な資料のためのスポンジでできた書見台のようなものも用意されていた。また ILL の貸借資料や学内保管庫から取り寄せた貸出しできない資料を閲覧するためにも利用されている。

#### 館内にあるメインの閲覧室 Loker Reading Room

(図 5[2]) はこの改装時に白く覆い隠されていた天井部分から Widener Library 建設当時のオリジナルの天井が現れ、修復により色が再現された。現在はパステル調の淡いピンクとグリーンの美しい模様がやわらかな雰囲気を与えている。この閲覧室に隣接する Atkins Reference Room (図 5[2]) には 20 台以上の検索用 PC やコピー機 (データとして取り込み e-mail に添付することもできる FTP 機能付き) があり、レファレンスライブラリアンがさまざまな支援をおこなっている。しかし、コストカットの影響で夜間はプロフェッショナルライブラリアンではなく大学院生アシスタントがレファレンスデスクでサービスを行うことになったそうだ。この日案内してくださった Ms. Pamela J. Matz は、より多くの大学院生をトレーニングしてレファレンスデスクに就く次のレファレンスライブラリアンを育てることが大切だと話してくれた。レファレンスデスクへの質問は直接されるものから間接のものへ変わり、バーチャルレファレンスが盛んになっている。当初はチャットによるものが多かったが、昨今では e-mail や Text (携帯電話から送れるテキストだけのショートメッセージのようなもの) が主流となった。回答するために時間が必要な複雑な質問の場合、チャットよりも断然 e-Mail や Text が向いているためチャットはあまり使わなくなったそうである。また、これらの質問は日本の国立国会図書館のレファレンス協同データベースのような形で利用されている。



図 5 閲覧室とレファレンスルーム

Photography courtesy of Harvard College Library, Harvard University

#### Newspaper Microfilm Reading Room

Widener Library を入ってすぐに目にする大階段の裏側に位置するこの閲覧室とそれに隣接する保管庫には、前述の大改修の際に Widener Library にある歴史的資料と連携して閲覧・調査したいという要望が多数あったために Lamont Library から移転したマイクロ版新聞や古くて取扱いに注意が必要な紙媒体の新聞が中心となっている。近年の新聞媒体は、ニューヨークタイムズのようにデータベース化されて PC から自由に検索ができるものがある一方で、依然としてマイクロフィルムや紙媒体の資料や、米国内の小さな地方紙や海外の新聞などのデータベース化されていないものもある。このような様々な利

用形態となっているものを閲覧または、CDやe-Mailへの添付などで持ち帰ることができる。

## Periodicals Reading Room

1階のメインロビーから離れた場所に最新刊（1、2年）の定期刊行物を収容した雑誌閲覧室がある。貸出しはできないが、この部屋で閲覧、コピーが可能。利用の多い新聞は閲覧室内の新聞ケースに配架されている。かつては紙媒体の雑誌だけだったため、図書館が開館すると同時に多くの人たちがこの部屋に駆けつけてきたのだが、現在は電子化が進み、PCで最新のものを確認でき、貸出カウンターでラップトップPCの貸出を行っており、そのPCで電子ジャーナルを閲覧できるので、部屋のスペースも縮小している。

これらの充実した資料やコレクションを備えた **Widener Library** を支えているのがサブジェクトライブラリアンなどの専門職であるが、**Widener Library** のスタッフ名簿には100名近い専門職の名が連ねられている。**Widener Library** の蔵書は、文学や歴史に重点を置いた人文科学と社会科学の図書が中心である。またコレクションとしては、米国以外にもヨーロッパ、中東、アフリカなどの多彩な地域に及んでいる。

## <訪問館 2>

### Lamont Library

**Lamont Library**（図6）は1949年に米国内で初めて学部生向けの学習用図書館として建設された。この図書館は、1937年から1955年まで **Harvard College** の図書館員で **Harvard University Library** の館長であった **Keyes De Witt Metcalf** によって提唱された建物独立型の学習図書館である。

入館ゲートを入りまず目に付くのが4年前にレファレンスルームであった場所を改装したカフェスペースである（図7[3]）。大きなガラス窓からは中庭が一望できるゆったりとした空間である。書架や閲覧室にも近く、自由に利用できるPCが設置されており、個人のラップトップPCが接続できるワイヤレスアクセス環境も整っている。カフェの中には、新着雑誌や新聞などもあり、気軽にブラウジングすることもできる。カフェの営業時間は日曜から木曜は午後3時から午前2時、金、土曜は午後3時から8時で、24時間開館（日曜の午前9時から金曜の午後10時までずっと開館、土曜は午前9時から午後10時）をしている図書館で、学生が主に活動している時間帯を考慮した設定になっている。テーブルや椅子はさまざまな形や高さのものを配置し利用者への便を図っている。もちろんこのカフェスペースは学生が学習する場としても利用でき居心地のいい空間となっている。



図6 Lamont Library 入り口



図7 図書館の入り口側から見たカフェ  
Photography courtesy of Harvard College Library,  
Harvard University

カフェに隣接する Ginsberg Reading Room にはさまざまな学習スタイルに適応するよう、昔ながらの学習テーブルやキャレルデスクや柔らかなソファなどが書庫のすぐそばに配置されている。こちらの座席は予約制ではなく、First come, first served の早いもの勝ちである。カフェに近いためまったくのクワイエットエリアではないが、セミクワイエットといった環境になる。この他に Donatelli Reading Room が 3 階にある。カフェから階段を上ったところには展示のスペースがあり、訪問時には 2011 Undergraduate Book Collecting Prize に輝いた学部生の収集コレクションプロジェクトが展示されていた。3 階には Forum Room があり、この部屋はちょっとした教室のようだが 103 人収容でき、特別なイベントや、学生がグループや団体に利用している。個人的なミーティングや活動に利用することも、学部がオリエンテーションに利用することもある。こちらには OHP 機能やインターネット接続、大型黒板、OHP プロジェクタを備えている。一般には開放されていないが、事前に図書館に届けば利用できる。

### George Edward Woodberry Poetry Room

このコレクションルームには 20 世紀および 21 世紀の英詩の比類ないコレクションがあり、また、音楽、ビデオの素晴らしい目録と、学術論文、雑誌、広告(ポスター)原稿などもある。Academy of American Poets から 40 年来の録音資料が保存維持されており、学術的協会に所属していない成人の研究者にも開放されている。そのほかにも、現代詩の特別なコレクションや、Henry Weston Farnsworth Room、レジャー読書コレクション、モース音楽&メディアのユニット、再生用の最新式オーディオ・ビデオ機器で利用の多いコレクションがある。

これらのコレクションのなかで最も重要なものは、オーディオアーカイブで、1930 年代の T.S.エリオットの録音に始まり、今では米国でもっとも総合的な詩録音コレクションの一つに成長している。



図 8 Multimedia Lab

Photography courtesy of Harvard College Library,  
Harvard University

Lamont Library の Multimedia Lab には、幅広いマルチメディアプロジェクトを制作、編集、公表するための Mac や Windows の PC があり、いろいろなメディアコレクションがある。オーディオ機器も備え、ビデオや音楽メディアの貸出も可能で、ここで視聴することもできる(図 8[4])。利用者を支援するスタッフが日曜から木曜は午前 0 時まで、金・土曜は午後 10 まで常駐している。この図書館の最上階にある Language Resource Center は図書館とは別部署になるが、連携を取っている。Harvard 大学では様々なコースで 100 以上の言語が話されており、それらのコースのために様々なビデオが

Language Resource Center のサーバーから配信されている。Language Resource Center は午前 0 時で閉まってしまうが、Lamont Library は 24 時間オープンしており、Lamont Library 内の指定された PC からストリーミングで閲覧ができるようになっている。また、言語関連以外のコースリザーブ資料は図書館のものをサーバー上にアップし、図書館やほかのキャンパスに配信している。

また、100 種類以上のソフトウェアやビデオ、オーディオ、マルチメディアの用意がある。近年たくさんさんのマルチメディアプロジェクト授業が開設され、その授業内でそれらのマルチメディア素材(機器)を利用するため、スタッフはソフトを使うトレーニングを行い個々の機器の使い方を手助けし、時には



授業でも使い方のサポートをおこない、学部と協力している。個人的な助けを必要とする学生にも対応している。また、VES (Visual Environmental Studies : 映像環境の授業) コースを受講している学生のために iMovie のような簡易的に学生がビデオ編集をできる環境も用意している。

### Harvard Map Collection

外部から直接入室できないため Lamont Library を経由するこのコレクションルームには米国で最古の地図コレクションがある。およそ 40 万枚の地図、6000 以上の地図帳、数千冊のレファレンスブックなどがあり、古地図、地形図、都市計画、海図、テーマ別地図、火災保険地図などは節目となる重要な時期の優れた研究コレクションから構成されている。16 世紀まで遡るような歴史的な紙媒体の世界中の地図まで用意されており、年に 3 回、所蔵地図のハイライトの展示を行っている。さらにこれらの紙媒体のコレクションに加えて、デジタルの資料も様々な形式で保管している。ここでは電子化された地図やそれを利用する地理情報システム (GIS: Geographic Information Systems) などのソフトウェアを取り揃えており、GIS で使用する何千ものデータは室内の (Harvard Map Collection 研究用ワークステーション) PC で利用できる。さらに GIS プログラムで利用するデータのほかに、何千ものデジタル画像や電子地図帳を保持しており、GIS のソフトウェアやデータについてより知識を得たい学生や学部にもその支援もおこなっている。このデジタルコレクションは最新式の PC 地図リソースを Harvard の学生、学部、職員に提供し、GIS や地図作成、遠隔測定、地理調査分析を容易にし、進展させている。

### Collaborative Learning Space



Photography courtesy of Harvard College Library Imaging Services

図 9 Instruction session



Photography courtesy of Harvard College Library Imaging Services

図 10 Two-screens; theater seating

2008 年に計画をスタートさせ、改装されたラーニングスペース (図 9,10[5]) には、プロジェクト用の 2 つのスクリーン、DVD、VCR プレーヤーを備え、高音質の音楽を提供できる機材が設置されている。室内のテーブルや椅子は可動式で、さまざまな形に組み合わせることで、大きなレクチャーから、グループ学習、個人ごとの学習などに対応でき、簡単にアレンジできることが最大の強みである。またこの部屋には、数本の細い柱 (図 11[5]) があり、そのなかに電源を引き、差込プラグロを設けて、個人で持ち込んだラップトップ PC に電力を供給している。そして持ち込みのラップトップ PC から室内にあるプロジェクタや備え付けのモニターに接続が可能 (図 12[5]) で、無線 LAN も完備している。



Photography courtesy of Harvard College Library Imaging Services

図 11 Different ways to arrange table

そして持ち込みのラップトップ PC から室内にあるプロジェクタや備え付けのモニターに接続が可能 (図 12[5]) で、無線 LAN も完備している。

また、互換性のあるスクリーンやプロジェクタに接続できるほかに、TeamSpot（ウェブベースのインターフェイス）にも接続できる。TeamSpotは46インチのプラズマディスプレイ上でドキュメントやプレゼンテーションやウェブページを表示させて、作業中のグループで編集作業をおこなうことができ、注釈を加えたりすることができるアプリケーションで、作業中のそれぞれのPCにドキュメントを送ることもできる。また作業しているものを共同作業者に見せるためにTVモニターに送り出すこともできる。TeamSpotの使い方や指導もこの部屋でおこなっており、新しいテクノロジーとアイデアにサポートが加わった充実した部屋になっている。

もともとこの部屋は学生の共同研究をサポートする目的で計画がスタートした。図書館のインストラクション用ではなく、図書館を利用する人のための部屋をイメージした。他人の邪魔をしないで自分の作業ができるスペース、グループのマルチメディア共同研究ができる場所、一緒に何かをする場所というコンセプトである。

以前この場所は普通の教室で14人ほど入れればいっぱいの小さい部屋が2つあった。1クラス20人の授業だと、設置していたPCでは足りず、学生が共用しなければならないような部屋だった。大きくてフレキシブルで授業用だけではない、よりよいスペースを作りたかったそうだ。（2008年から進めた計画は昨今の経済危機からプランを変更、サイズダウンを余儀なくされ、計画を修正したという余談もあった。）この部屋について学生や教員に調査をおこなったが高評価を得ており、とても人気のスペースとなっているそうだ。



図 12 Shared wall monitor

#### 参考文献

- [1] “ハーバード大学”. 日本大百科全書（ニッポニカ）.（オンラインデータベース）, 入手先くジャパンナレッジ, <http://na.jkn21.com/>>,（参照 2011-12-28）
- [2] 図 5 Loker Reading Room, Atkins Reference Room  
Harvard University ホームページ [http://hcl.harvard.edu/info/study\\_spaces/#widener](http://hcl.harvard.edu/info/study_spaces/#widener)  
（参照 2011-12-28）
- [3] 図 7 Lamont Library Café  
Harvard University ホームページ [http://www.dining.harvard.edu/retail\\_dining/restaurants\\_lamont.html](http://www.dining.harvard.edu/retail_dining/restaurants_lamont.html)（参照 2011-12-28）
- [4] 図 8 Multimedia Lab  
Harvard University ホームページ <http://hcl.harvard.edu/info/equipment/index.cfm>  
（参照 2011-12-28）
- [5] 図 9,10,11,12 Collaborative Learning Space  
Harvard College Library Imaging Service 提供

### <訪問館 3>

#### Harvard-Yenching Library (Harvard-燕京図書館)

訪問日：2011年12月9日(14:00~16:00)



図1 Yenching Library

#### <歴史と現状>

今回の集合研修の訪問館には組み込まれていなかったが、研修最終日の12月9日(金)の午後、Harvard-Yenching Library(図1。以下、Yenching Libraryとする)を単独訪問した。同館に関心を持ったのは、同館が筆者の勤務している大学の図書館と仏教やアジア研究に関する学術交流を目的とした友好協定を締結しており、せっかくHarvard大学まで行くのだから、見学しておかない手はないと考えたからである。

Yenching Libraryは、門と柵に囲まれたHarvard Yardの外にあるので、Widener LibraryやLamont

Libraryのような厳重な警戒態勢にはない。しかし、図書館内は他のHarvard大学の図書館と同様、基本的には写真撮影は不可とのことであった。

Harvard大学の東アジア研究専門図書館として開設されたYenching Libraryは、19世紀後半からアジア図書の収集を本格的に開始し、現在ではアジアに関する蔵書約110万冊を有している(同館の開設は1928年であるが、コレクションの収集は中国語がHarvard大学の正式カリキュラムとして提供された1879年に遡るとされている)。そのうち日本に関する書物は約30万冊であり、米国では議会図書館、UC Berkeleyに次ぐ3位の蔵書数となっている。Yenching Libraryはその名前に明らかなように燕京大学との関係が深い図書館である。燕京大学は、中華民国時代に北京に存在していた私立大学であるが、中華人民共和国政府により1952年に解体され、北京大学等に再編されたとされている。

このように日本と中国に関係の深いYenching Libraryは、当初はHarvard-Yenching研究所の中日図書館であったが、1965年にその名称を現在のYenching Libraryに変更した。さらに、1976年にはその運営をYenching研究所から独立させ、Harvard大学の図書館として、現在の運営体制に至っている。ただ現在でもYenching研究所とYenching Libraryは同一建物内に存在しており、両機関の関係は深い。現在では、中国を筆頭に、日本、韓国、ベトナム等の東アジア諸国のコレクションが充実している。館長以下の専門職の配置は34人に及んでいる。コレクション関係でいえば、中国関係で7名の専門職が配置されており、日本、韓国はそれぞれ3名、ベトナムが1名となっている。

#### <館内の構造とコレクション>

訪問に際しての事前コンタクトは、日本にもよく講演等にいられているマクヴェィ山田久仁子さん(Librarian for the Japanese Collection)にお願いしたところ、ちょうど訪問予定の時期は山田さんが日本に滞在中とのことであり、代わりに同館の勝見道子さん(Japanese Cataloger)をご紹介頂いた。訪問当日は、勝見さんのご案内により、館内の見学、また同館の歴史や日本部門の現状等のお話を聞くことができた。さらに、幾人かの日本人スタッフの方々もご紹介いただき、有益な交流が計れた。図書館そのものは、地上3階地下1階建ての比較的小ぢまりとした建物である。正面玄関には、燕京図書館の名前に相応しく、一對の中国の狛獅子が配置されている。玄関から向かって右半分がYenching研究

所で、左半分がYenching Libraryという構造である。建物の中は、今回の研修の大きなテーマでもあるラーニングコモンズが設置されていることもなく、通常の閲覧室と書架からなる伝統的な図書館である。1階部分は、館長室をはじめ、事務室、閲覧室、マイクロ資料閲覧室、特殊コレクション室等である。また2階と3階は、主に日本コレクションが排架されており、地下部分に中国コレクション、韓国コレクション、ベトナムコレクションが排架されている。これだけ書くと、面積的には日本コレクションの占める割合が高いように思われるが、地下の中国コレクションのコーナーには電動の周密書架が設置されており、ボリューム的にはこちらの方が多きようである。もっとも図書の多くは、この建物外の保存書庫に置かれているとのことである。

「Yenching Library は、西洋世界における東アジア研究のための最大の大学図書館である」と同館のホームページ[1]にもあるように、中国や日本のコレクションが充実している。日本コレクションでは、江戸時代の書籍を中心に、現代のマンガに至る出版物まで実に豊富である。日本においては保管場所等の関係で置きにくくなりつつある各大学の紀要の類まで多く所蔵されている。特に Petzold (Bruno Petzold, 1873-1949 ドイツ人の天台仏教研究者) が収集した仏教のコレクションが有名であり、このコレクションの整理にこれまで日本の多くの大学の関係者が関与してきたようである。これら東アジア関係の書籍の分類については、かつては「Yenching 分類」という同館が開発した分類法が採られていたが、現在は米国議会図書館の LCC 分類で整理が行われているとのことである。

#### <日米の大学図書館事情－日本の特殊性の再認識>

見学後に、日米の大学図書館の現状について、若干の意見交換を行うことができた。勝見さんによると、Harvard 大学の図書館も変革の時期にあり、現在ある 80 程の図書館 (Widener Library を頂点とするカレッジ図書館のグループ、大学院図書館、特殊図書館など) を一体化させて大きく 5 つぐらいのグループに分けることが検討されているとのことである[2]。グループ分けの内容や意図等については詳しくは判らないとのことであつたが、特色ある枠組みによる再編が実施されることは間違いなさしい。またこれにあわせて図書館の組織が IT 部門、デジタル部門、アクセスサービス部門、財務担当部門などに分かれるようで、その説明会が頻繁に開催されているようである。Harvard 大学の図書館は大きな組織であるが意外と迅速に事が運んでいるようにも思えるとのことであつた。このことについて、「日本では組織の再編は、大抵はその組織の縮小を伴うものです。Harvard 大学においても図書館部門の何らかのストラテジーが実施されるのですか？」と質問したところ、「ハーバードというか、米国においては、そのような観点はあまり表面化していない。日本において、図書館部門が縮小され、外注化・委託化されているということをよく聞くが、なぜそのようなことになるのか理解できない。」とのことであつた。大学における図書館の位置付けの日米の違いをここでも、あらためて感ずることとなった。

また Yenching Library は、1980 年代までは日本コレクションが中心であり、専門職スタッフも充実していたが、経済情勢に呼応して現状では中国・韓国のコレクションに比重が高まっているとのことである。これは Harvard 大学全体にも言えることであり、日本人の教員や学生を見ることが本当に少なくなったとのことである。Yenching Library の利用者も約 9 割は中国人とのことである。よく言われているように日本人は内向きになってしまったのであろうか。このことに関連して、研究環境を巡る日本の特殊性について、Yenching Library の久下榮司さん (Interlibrary Loan Services) からお話を聞くことが出来た。久下さんは日本からの ILL 要求の少ない理由として、先ず日本の図書館の閉鎖性をあげられた。日本の図書館は、他大学図書館との共同利用の観点もほとんどなく、あってもせいぜい日本国内の図書館との間に留まっていることが多いとのことである。また、日本の金融システムも同様に閉

じており、銀行の手数料が高く外国への送金が困難であることも国外利用を阻害している要因であるとのことである。そして、最後に ILL の利用料がほとんど利用者負担になっていることも日本独特の研究環境のようである。

ILL の担当者である久下さんが実務を通して日頃感じておられること、それは日本が非常に特殊な閉じた世界の中にあるということであろう。日本の大学、大学図書館の現状もまさに、世界のそれとは異なった動きの中にあるのかもしれない。

#### 参考文献

[1] Harvard Yenching Library ホームページ

<http://hcl.harvard.edu/libraries/harvard-yenching/history.cfm> (参照 2011-12-28)

[2] 「ハーバード大学、学内図書館を 5 グループに分ける新組織体制を発表 2012 年には実行フェーズへ」 Current Awareness Portal (Posted2011 年 9 月 30 日) <http://current.ndl.go.jp/node/19206> (参照 2012-1-6)

## ⑦Boston College

(日本語名：ボストンカレッジ)

訪問日：2011年12月8日(15:00~17:30)

<大学について>

所在地	マサチューセッツ州チェスナットヒル市
WEB ページ URL	http://www.bc.edu/
学校種別	4年制、私立、非営利、男女共学
与えられる学位	Bachelor's degree, Master's degree, Post-Master's Certificate Doctor's degree -research/scholarship Doctor's degree-professional practice
キャンパスの立地	ボストン市の郊外
キャンパス寮	あり
学生数	学部生：9,100人 大学院生：4,900人
学生教員比	14：1
大学創立	1863年

<大学概要>

Boston College の歴史は、19世紀にカトリック市民と移民の入学に制限を設けていたハーバード大学に対抗しうるカトリック学校として1863年にイエズス会により総合大学として設置され、初期はリベラルアーツの単科大学であった。ボストン市内で最も古い大学だったが学生数の増加により1907年に現在のチェスナットヒル市に引っ越した。ゴシック調の大聖堂は大学の象徴となっている(図1)。アーツ・アンド・サイエンス(A&S)・経営・教育・看護系の学部・大学院がある。学部の2011年度受験状況は2,250人募集に対し、志願者数32,973人で合格者は28%で、80%の入学者が高校の成績上位10%を占めている難関大学である。学費は年間約41,480ドルと高額である。スポーツも盛んで特にアメリカンフットボール・アイスホッケー・バスケットボールはNCAA(全米大学体育協会)のDivision1に所属していて高レベルなことで有名である。[1]



図1 Boston Collegeの象徴である金の鷲の彫像が中央に見える

<訪問館1>

### O'Neill Library

O'Neill Library は1984年に卒業生の政治家 Tip O'Neill(Thomas Phillip O'Neill, Jr.)氏の寄附金により建設された。地上3階地下2階の5階フロア構成である(図2)。Boston College には全部で8つの図書館があり蔵書冊数は250万冊である。そのうち O'Neill Library は140万冊を蔵書し、Boston College の学

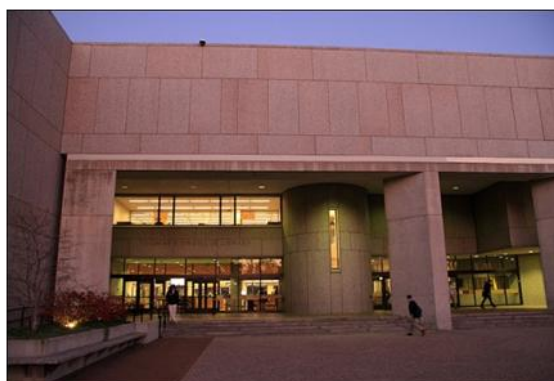


図2 O'Neill Library 外観

習・研究を支える主な図書館である。訪問団が約束の3時に到着すると Ms. Adeane Bregman に出迎えていただき、学習室 Classroom307 で図書館の説明を受けた (図 3)。

#### <ライブラリアンの説明>

図書館サービスは全てオンラインになっている、本も電子ブックになり、図書館でのサービスは Chat や Text や Facebook、電子メールによる利用者と図書館員のコミュニケーションサービスが主流であること、ライブラリアンへの質問は年中無休で、Text with a Librarian・Chat with a Librarian・Meet with a Librarian・Call a Librarian 等、ライブラリアンとは顔を合わせなくても24時間いつでもどこからでも質問ができるオンライン・レファレンスサービス体制が整備されている。



図 3 Ms. Bregman による熱心な説明

主題別の専門ライブラリアンの氏名・電話番号・メールアドレスがリスト化されていて、学生が相談し易い環境も整えている。Ms. Bregman の「ライブラリアンはまず大学に入学してきた新生が高校の時にどんな図書館トレーニング(活用)をしてきたかがわからない。学生達はグーグルで全て検索しようとするがグーグルには全ては載っていないのでライブラリアン達が教員と連携して図書館で必要な情報を提供できるように頑張っている」という話の中で、新生に提供する図書館における初年次教育の重要性を伺うことができた。また、それに関わり支援するライブラリアンとしての熱意が伝わった。

カウンターには iPad や iPod touch を備えており、それらを使って、図書館員が教員とは異なった立場で教育研究に積極的に関わっている。その事例として「コースマネージシステム」がある。例えば授業で使う論文を図書館がサーバーに入れて、その授業をとっている学生だけが閲覧できるというシステムを採用している。教科書も全て買わなくてはいけないというわけではなく、図書館では必要な“章”をサーバーに置くようにしている。Ms. Bregman は「折角デジタルで提供していても学生はそれらをプリントして読んでいて本末転倒」だと少し嘆いていたが、学習のための電子的環境が整備されており、学習のための教科書や参考書を電子的に提供していることは進歩している。

図書館の HP には学生が色々な質問をしてくる。MIT や Harvard も同じシステムを採用している。検索性ボックスに文字を入力すると質問を予測するサジェスト(入力補助)機能もあり、その中から選択できるようになっている。リサーチ用データベースも分野毎に詳細に調べることができる。いつでもどこからでも学生はオンラインで閲覧が可能である。次世代図書館検索ツールと e-Learning 支援と、e-Research 支援が着実に進展していることが解った。

説明を受けた学習室 Classroom307 は、図書館の利用指導に使用する場所だが、試験を控えたこの時期は学生が学習に利用することも可能である。図書館の利用指導授業(インストラクション)では、1人が前で説明してもう1人が学生の間を巡回して質問に対応しながら PC 操作の手伝いをする。Ms. Bregman は「インストラクションがとても大切」と語っていたのが印象的であった。

彼女の年齢を感じさせない講義は、日常的に学生への学習・教育研究のサポートをされているライブラリアンの一面に触れることができた。また、永年の伝統的な知識と見識の蓄積、更に近年の環境の変化に柔軟に対応されていることに強い感銘を受けた。

<多目的な機能を有したメインフロア>

広場からエントランス(図 4)を入ると正面に Reference Desk がある(図 5)。常駐のライブラリアンからは入館者や閲覧席が 360 度見渡せるような配置になっていて、利用者に対して躍動的なサポートをしている印象を受けた。エントランスの左側には Reference Desk とは別に、貸出・返却と PC 貸出や技術サポートを行うスタッフが常駐するカウンターがある。



図 4 開放的なエントランス



図 5 正面にある Reference Desk

正式なインフォメーションコモンズとカフェはない。食堂が隣の建物にあり、図書館内の自販機では飲み物と軽食を購入でき、付近にテーブル・ソファーが用意されていた。参考書フロアは閲覧席(図 6)と PC が備えてあり、今回訪問した大学の中では、より日本の大学図書館と類似した光景で電源が足りず延長コードがフロア中を這っていた。

Technology Support Center(図 7)は、プリンターなどの情報機器関係が揃っており、セルフサービスで印刷・スキャン・コピー・FAX ができる。学生スタッフ 2 名が朝 7 時半から夜 11 時までテクニカルサポートを行っている。1 セメスターで 500 枚は無料でそれを超えたら 1 枚 3 セントなる。サービスカウンターはフロアの中央にあり、アイランド型で 360 度全方向に対応する作りになっている。



図 6 メインフロアの閲覧席



図 7 Technology Support Center

ILL スペースでは、スタッフ 4 人がフルタイムで世界中の資料を集めている。BC には約 300 万冊の蔵書があり、電子ブックもあるが ILL をよく利用し、本を取寄せる。依頼先は日本やオーストラリア、世界中どこにでも依頼していると強調していた。

閲覧席や書架を囲むようにガラス張りの個室があり、サブジェクトライブラリアンのオフィスになっていた。利用者からもサブジェクトライブラリアンのオフィスからも可視化された環境は、図書館という空間が全ての利用者とサポートする図書館員のオープンな機能として印象に残った。



<大学院生に対するサービス空間>

Graduate Reading Room(図 8)は、大学院生に対するサービス空間として、区分けされており、学習・研究エリアとロッカースペースも確保されていた。大学院生に対するきめ細やかなサービスと受け止められる。後に見学する Bapst Art Library でも同様に大学院生専用のエリアが設置されており、大学院生への手厚いサービスは研究支援体制の強化と伺える。



図 8 Graduate Reading Room

<リラックスできる居心地よい空間>

Quiet Zone(図 9)では、最適な座り心地が良さそうなソファが設置されていた。訪問大学の全ての図書館に設置されていた類似のソファは、色・デザインに大学のカラーや個性を取り入れ、リラックスできる空間と静寂な環境を提供し、読書や学習に最適な空間を演出していた。



図 9 Quiet Zone

<Study Rooms>

グループ学習室(図 10)は個室が 9 室設置され、1 室は大学院生専用に確保されていた。全ての部屋がガラス張りで学習・研究活動の様子が見られるようになっており、学生が QR コードかまたはネット (Web) から 1 日 4 時間まで予約できるシステムになっている。個人用の学習デスクはフロアのあらゆる場所に配置されており、様々な種類の机や椅子で自分の好きな場所で、好きなように自分のスタイルで学習しているのが印象的であった。



図 10 グループ学習室

廊下にある Tip O'Neill 展示室は平日 11 時から 15 時開館している。専従のライブラリアンが在室し、多種の学習スペースがある。

Connors Family Learning Center(図 11)は、4 人のディレクターとアシスタント (ピアチュータ) がいて、ライティングサポートを行っている。

Media Center は、2 万枚の DVD やビデオと 3 万枚の音楽 CD がある。専門分野だけでなくエンターテインメントや有名な映画もある。2 人のスタッフがサービスを行っていた。貸出期間はビデオと DVD は 4 日間、CD とカセットは 7 日間、LP とレーザーディスクは 28 日間である。



図 11 Tip O'Neill 展示室と突き当りの部屋は Connors Family Learning Center

館内見学を終え Ms. Bregman の部屋に戻るとクッキーを勧められ会話が弾んだ。図書館オンライ

ン・サービスにより顔を見なくても学習・研究支援を行う一方で、ライブラリアンの個室に学生が直接相談に訪問した際はコミュニケーションを駆使し、学習・研究支援をされている様子が伺えた。館内を案内されている最中に会う複数のライブラリアンと Ms. Bregman の生き活きとしたコミュニケーションが深く印象に残った。

## <訪問館 2>

### Bapst Art Library

1925 年建築の 初代学長の名前が付いた Bapst Art Library (図 12)は、1984 年に O'Neill Library が開館するまで 58 年間 Boston College を支えていたという。蔵書冊数 51,000 冊、150 タイトルの逐次刊行物を所蔵している。閲覧席は個人キャレル合わせ 400 席の厳粛な学習スペースが整っており、24 時間開館している。スタンドグラスに埋め尽くされた窓と天井や壁面が厳かな雰囲気 of 漂う重厚な建造物の中で学習・研究に集中している厳粛な光景 (図 13) があつた。Ms. Bregman が自慢するだけの素晴らしい図書館環境である。永年芸術と建築の専門分野の学習・研究を支えてきた図書館を愛するライブラリアンの「米国で一番美しい図書館」という自信の言葉が印象深い。

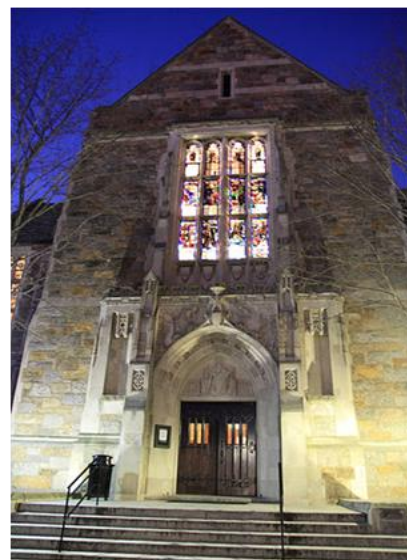


図 12 Bapst Art Library 外観



図 13 24 時間開館の Gargan Hall

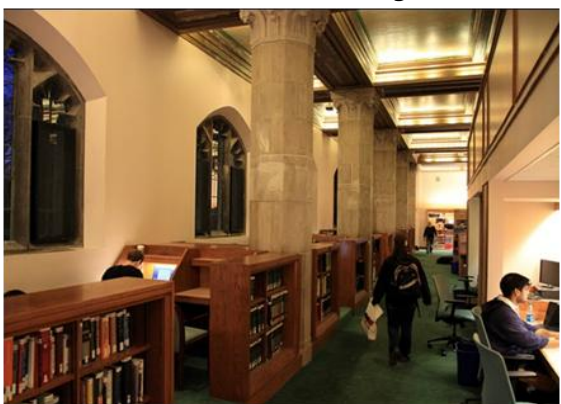


図 14 大学院生のための個人閲覧席

Bapst Art Library にも大学院生専用の Graduate Study and Research エリアが確保され、書斎風の個人閲覧席が 60 席整備されていた(図 14)。また、10 台の PC とレーザープリンターとロッカーが大学院生専用 to 備えられており、大学院生への研究支援体制が強化されている。こちらの閉館時間は午後 11 時である。

Boston College 訪問では、築約 90 年のシンボリックな伝統ある図書館と、先に見学した近代的で機能的な図書館が見事に融合されている成功例を見た。その図書館を支えているのはライブラリアンとして仕事に携わる Ms. Bregman をはじめとする「人」であることは言うまでもない。米国大学図書館で出会ったライブラリアンたちは教育の現場により近い位置に存在していた。教員とは違った立場で教育の一端を担っている使命感を肌で感じたことは大きな収穫である。日本の大学図書館員は、一定期間で異動する専任職員と非職員 or 外部委託への移行が進み、図書館を支える「人」が危ぶまれる現状である。一定の分野の専門知識を有する図書館学習支援者やサブジェクトライブラリアンの採用など、図書館の職員体制を駆使して実現する必要がある。

## 参考文献

[1] Boston College ホームページ <http://www.bc.edu/offices/pubaf/about/facts.html> (参照 2011-12-28)

## ⑧Massachusetts Institute of Technology

(日本語名：マサチューセッツ工科大学)

訪問日：2011年12月9日（10:00～12:30）

<大学について>

所在地	マサチューセッツ州ケンブリッジ
WEB ページ URL	http://web.mit.edu/
学校種別	4年制、私立、非営利、共学
与えられる学位	Bachelor's degree, Master's degree Doctor's degree - research/scholarship
キャンパスの立地	都市（中規模）
キャンパス寮	あり
学生数	学部生：4,299人 大学院生：6,267人
学生教員比	8：1
大学創立	1865年

<概要>

今回の海外集合研修の自由研修日に指定された12月9日に訪問した視察先のひとつが Massachusetts Institute of Technology（以下 MIT とする）の図書館である。2004年より初の女性学長が就任している MIT は、1865年に創立し、現在のボストン市の中心部に流れ込むチャールズ川のほとりに移転したのが1916年である[1]。設立当初より、技術教育を中心とした「エンジニア」を育成する方針を重視している。以来、工学や科学の分野を主に現在では社会科学や芸術の分野も含む総合大学として成長している。高水準の教育を提供する機関として、数多くのノーベル賞受賞者を輩出し、世界に名だたる大学として認知されている[2]。



図1 前衛的なデザインの Stata Center：コンピューターサイエンスや言語学や哲学などの部署が同居している研究施設



図2 定期便として活躍しているバン。後方側面に“MIT Libraries”とある

敷地内の建物は1916年の現在のキャンパスに移転した際に建設された歴史的な建造物から、独創的といってしまうような建造物（図1）までの様々な形態の建造物が存在していた。今回の集合研修で訪問した大学にはキリスト教的なバックグラウンドをもつ大学や長い歴史が作り出す統一的なキャンパスの雰囲気が多い中で、このような建造物の構成からなるキャンパスは異彩を放っていた。MITの図書館も他の大学同様、複数の図書館から構成され、今回、訪問させていただいたのはそのうちの3図書館である。蔵書構成はそれぞれ受け持っている専攻分野により違いはあるが、24時間開館している図書館や利用できる設備などが図書館によって異なるため、学生は用途に応じてそれぞれの図書館を行き来するであ

ることがわかる。利用頻度の少ない資料のための書庫があり、1箇所は大学敷地内にある書庫で、もう一つは、地下鉄で2駅先と距離的にも近いハーバード大学と共用の書庫が車で30分ほどの所にあり、毎日、図書館の定期便(図2)で配送されているとのことだった。また、多くの優秀な工学系卒業生を輩出している大学だけあり、MITは昨年8月に早くもスマートフォン向け図書館サイトを公開している[3]。

#### <訪問館1>

##### Barker Library

大学創立当初から存在するエンジニアリングの分野の蔵書が配置されているこの図書館はチャールズ川のほとりに移転後のMITの最も古いシンボリックな建物(The Great Dome)(図3)に位置している。この建物のドーム



図4 Barker Libraryの  
閲覧室

ム部分にあたる5階から8階が図書館として使用されている。図書館はThe Great Domeの外壁に沿って書架やグループ学習エリア、メディアス

ペースなどが配置され、The Great Domeの下には開放的な閲覧スペース(図4)が展開されている。この閲覧スペースは1916年にこの建物ができた当初より閲覧スペースとして利用されていて、席数は少ないがドームの形状がわかる高い屋根の下にソファや机が配置されとても解放的な気分の中で集中できるようになっている。我々が訪問した際にも数は少なかったが熱心に勉強している学生の姿が見受けられた。メディアスペースには利用者がいたために詳細の確認ができなかったが、個人でのDVDやビデオの視聴だけでなく、グループでの視聴やテレビ会議やプレゼンテーションの練習ができるよう

である。グループ学習スペースは、5階に7~8人までが利用できるスペースが3つ存在し、ホワイトボード、PCが接続できる大画面ディスプレイ、リラククスまたは思索用と思われる立体パズルのようなものが用意されていて、8階に2~4人で利用できる小スペースのブースが12用意されている。



図3 Barker Libraryが入っている、MIT  
の中心に位置するThe Great Dome

#### <訪問館2>

##### Hayden Memorial Library

図書館の入り口に“24 HOUR STUDY”と掲げられているように、24時間開館している、人類学と科学の蔵書が主の図書館(図5)になっている。地下1階から3階までの作りになっており、1階の入り口は入ってすぐ右手がサービスデスクになっており、貸出、インフォメーションサービス、レファレン



図5 Hayden Memorial Library 入り口  
“24 HOURS STUDY”と掲げられている

サービス、コースリザーブ（教員が授業で使用する資料の確保）のサービスが行われている。1階と2階にはロフトのようなスペース（図6）があり、ハンドル式の移動書架に蔵書が配置されている。Barker Libraryのような白板や大画面ディスプレイは配置されていなかったが、6〜8名ほどが利用できると思われる見通しのよいグループ学習スペースも1階と3階にそれぞれ存在した。24時間開館で安全性を確保するためということもあり、グループ学習スペースは内部が見えるガラス張りで、グループ学習スペースに設置されている電話は、夜間は直接MITキャンパスポリスに繋がるようになっている。壁面にずらりと配置され

たキャレルデスクも壮観であった。24時間開館しているため、学生へ提供できる設備などの環境面ではバランスが取れているように見受けられた。UMASSではメインの図書館にデスクトップPCが何十台と備え付けられたエリアが存在し、時には使うための行列をなしていたが、MITの図書館では、訪れた3館のどこにもそういったエリアはみられず、持参のノートPCで作業している人ばかりであった。



図6 Hayden Memorial Libraryの1階閲覧室と1階のロフトスペース

### <訪問館3>

#### Dewey Library

Hayden Memorial Libraryを訪れた際に、図書館スタッフから、Dewey Library（図7）は改装したばかりで、新しいグループ学習スペースもあるので、見ていくといいという話を聞き、急ぎよ訪問することになった。1階の閲覧室は24時間オープンしており、深夜12時以降は専用の入り口でカードをかざさないと入れない仕組みになっている。経済学、経営学、政治学という社会科学が中心のこの図書館は、地下1階から2階までを使用していて、30万冊以上の蔵書と約3000タイトルの雑誌とデータベースから構成されて



図7 Dewey Library 外観

いる。レファレンスサービスやコースリザーブサービスが用意されている。450万ドルをかけて改装をしたという図書館内には、200名以上の座席と、大小様々なグループ学習のための部屋が12部屋用意されていた。グループ学習スペースは2階にまとまって存在し、壁で仕切られた部屋になっている。それぞれの部屋の外側には小型ディスプレイ（図8）が設置されていて、そこで部屋の空き状況を確認できるようになっている。部屋は人感センサーで照明がつくようになっていて、部屋から人がいなくなった後、一定時間が過ぎると自動的に消えるようになっていた。また、全ての部屋に電話会議ができる仕

組みが準備されていて、テレビ会議もできる部屋も1部屋用意されていた。案内してくれた図書館スタッフの Ms. Anita Perkins によれば、グループ学習室の利用は頻繁にあるとのこと。利用は事前に予約する場合はインターネットから予約し、直接来て利用する場合は図書館スタッフに依頼し、空いている部屋を予約してもらうシステムになっている。

#### 参考文献

[1] フレッド・ハプグッド著、鶴岡雄二訳『マサチューセッツ工科大学』、新潮社、1995年

[2] ”マサチューセッツ工科大学”，日本大百科全書（ニッポニカ），ジャパンナレッジ（オンラインデータベース），入手先<<http://www.jkn21.com>>，（参照 2012-1-6）

[3] 「マサチューセッツ工科大学（MIT）図書館、スマートフォン向けの図書館サイトを公開」Current Awareness Portal（Posted2012年1月6日）<http://current.ndl.go.jp/node/18938>（参照 2012-1-6）

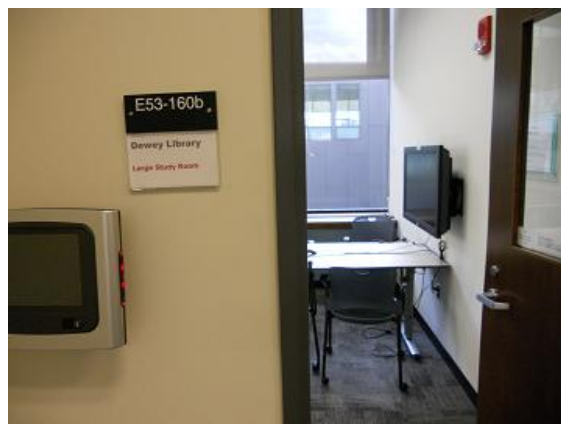


図8 グループ学習室の入り口で予約状況が確認できる画面とグループ学習室内のディスプレイ。ホワイトボードも用意されている

## 2. 今回訪問した米国図書館の特徴

### A.自由に選択可能な学習環境

自分の好みの勉強スタイルやその日の気分により学習場所を選択できる。静寂かつ荘厳な雰囲気を用意したリーディングルーム、PC環境の整備された個人学習スペースやグループ学習室やカフェなどの中で学生は自由に使い分けをしている。基本的に館内は無線LAN対応のため、エントランス付近などでもソファを自由に動かしたり、時には足を投げ出したり、自由な格好でPCを操作したり読書をする光景が見られた。最初はラーニングコモンズゾーンで勉強を始めたが、その後静粛なリーディングルームへと場所を移動する学生も見受けられ、用途に合わせて最適な場所へ移動していた。

また長時間滞在を想定したリラックスできる雰囲気が演出されており、静粛さの度合いもフロアや場所別に強弱が設定されている。飲食可能なスペースも有するため、館内の至る場所には分別ゴミ箱が設置されていたり、清掃体制が確立していたりと、清潔に保つ様々な努力がされている。

### B.デジタル化の波“デジタルストーリーテリング”

PCをはじめ館内に設置されている機器については、さほど日本のそれとは目立った差はないが、単にインターネット接続や文章作成機能が可能なPCを並べているだけではなく、映像や音声の編集に秀でたPCゾーンもしくは編集室が備えられているのが印象的であった。

その理由は、デジタル化の波を受け、近年では一部の課題レポートや卒業論文が紙媒体での提出からデジタルデータでの提出へと緩やかに移行していることが背景にある。この提出（発表）形式は活字印刷物の代わりに“デジタルストーリーテリング”というメディア作品を制作し、発表するというものだ。一種のドキュメンタリーのようなもので、多くの学部で採用され始めている。何かを研究した上で解釈し、映像を使いながらプレゼンテーションをするプロセスのため、最終的に自分の意見を伝えるという点では、現代的なアウトプット方法とも言える。

この話を聞いた当初は、論文を書くよりも作品を作る方が学生にとって楽しく取り組みやすいように捉えられているため、そちらに人気が高まっている程度に考えていた。しかし、上述のように訪問先でのデジタルストーリーテリングのためのICT機器の充実や、担当者からの話を聞くことにより、デジタルストーリーテリングが論文執筆の際に問題とされるコピー問題から、メディア作品にはそういった丸写しが通用する部分が極めて少なく、一から全てを作り上げるオリジナリティーや創造性をより際立たせることができ、独自性をアピールするには最適なものなのではないかと感じた。

またそれらの制作物に対するプレゼンテーションでは、コミュニケーション能力が求められる上、なにより、制作物を作り上げることは、メディア機器に対する知識やメディアマテリアルを使いこなすスキルが備わっていることを証明でき、就職活動でも即戦力になる能力があることを十分アピールできるものになるのではないだろうか。それゆえ、UMASSで計画しているマルチメディア・コモンズや、他大学の図書館でもそれに近い設備が完備されていたように、図書館の中にメディア制作をサポートするための空間を提供することが緊急の課題になっているのではないかと感じた。

### C.部署を超えた連携

独立した「個」の集合体としてのイメージが強い米国社会であるが、今回の全ての訪問先でライブラリアン達は、“Renovation”そして“Collaboration”という言葉 frequently 発していた。

米国の大学図書館においても館内のIT化には情報基盤センターとの円滑な連携が重要である。図書

館内において図書館・情報基盤センター・ライティングセンターが協働して、学生チューターを育成する大学もあれば、教員の授業計画に携わり宿題をサポートする大学もあった。

学生の宿題にしても然りで、発表形式のグループワークでの宿題が課され、学生たちはチーム内でそれぞれの役割分担を決め、成果を発表する共同作業が求められているようだ。

図書館内のカフェでも教員同士がコーヒーを片手に話し合っている姿が多く見受けられた。飲食をしながら会話をすることでお互いがリラックスでき有意義な話し合いに発展するという発想が根ざしており、例えば学生のフォーカスグループを使ってヒアリングを行う場合や、教員を含めた打ち合わせなどでは軽食を取りながら進めることが参加者の気分をリラックスさせる秘訣であるということであった。

#### D.ラーニングコモンズ

今回の訪問のテーマにもなっており、日本の大学図書館でもここ数年、新たな取り組みとして脚光を浴びている言葉である。それぞれの大学と大学図書館の規模に合わせて既に運用を開始しているところもあり、今後の展開に注目を集めている。そのような状況で今回、ラーニングコモンズ発祥の地である米国の大学図書館を訪問し、その特徴や運用状況を見ることができたことは非常に幸運だった。

今回訪問した大学では、規模などの違いはあるものの、充実した ICT 機器やカフェや販売機といったハード面だけではなく、ライティングセンターや FD センターや、テクニカルサポートやレファレンスカウンターや留学支援といったソフト面での学生へのサポート体制が確立していた。図書館に来れば用件が済んでしまうワンストップの環境ができていたことがとても印象的だった。ハードの準備は経済状況に大きく影響するところであるが、それがクリアされれば準備は可能である。しかし、ソフト面は教員を含めた他部署との連携をはじめとする画一的にはいかなないハードルをもクリアして学生にその環境を提供できることで、その状況を見られたことは大きな収穫であった。

文部科学省が平成 22 年に公表した「大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け」[1]には、大学図書館が「大学の教育研究にとって不可欠な中核」になる必要があると述べられている。我々が訪れた米国の大学図書館はハード面やソフト面での様々な違いはあるにせよ、既に「大学の教育研究にとって不可欠な中核」として機能していた。また、そこでは「学生の自学自習を支援する」体制が様々な形で整っており、「学生や教職員の知的交流活動の活性化」も見ることができた。

「学生の自学自習を支援する」最初の一步が情報リテラシー教育であり、情報リテラシーを培う拠点こそラーニングコモンズである。「情報リテラシーとは、どの分野にも通用する自立的な学習能力であり、それは生涯活用できるものなのである。社会人となったときこそ生きるこの情報を使う技能こそ、本来大学教育で習得すべき目標なのである」[2]とあるように、これを大学教育で習得すること、つまりいかに効果的かつ効率的に問題を解決し、意思決定のために必要な情報を取捨選択し利用できるようになるかが、学生生活における大きなポイントになる。情報リテラシーをはじめとした学習環境が様々な面から確立されている今回訪問した大学図書館は、まさに我々が目指していくべきところであると感じた。

出典元文章

[1] [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm)

大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－  
文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会、平成



22年12月

[2] [http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/pdf/annals\\_07\\_05.pdf](http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/pdf/annals_07_05.pdf)

ラーニング・コモンズの本質：ICT時代における情報リテラシー/オープン教育を実現する基盤施設としての図書館』 米澤誠 名古屋大学附属図書館研究年報 (7), 35-45, 2008

#### E. 大学運営と大学図書館

米国の大学図書館界には、図書館長や専門職としての司書が不動の位置付けを勝ち取ってきた歴史があるといわれている。図書館長の呼称は、**Director** や **Librarian** が一般的であると思われるが、既に **Dartmouth College** の項で紹介されているように、同大学では図書館長が **Dean** の肩書きを有している。**Dean** は学部長であり、大学の主要な執行部としての機能を有す呼称である。同大学の図書館長に対し、ラーニングコモンズの設置・導入に対する学内コンセンサスの形成について質問したところ、「教授会との慎重な意見交換すなわち“due process”が重要である。」との答えが返ってきた。“due process”は、もともとは法律用語（due process of law）であり、「適正手続」のことである。この言葉を学内コンセンサス形成の主要概念としているところに、同大学の伝統的運営の確かさを確認することができた。**Smith College** の図書館長との質疑の際にも、ラーニングコモンズの導入時における学内意思決定について尋ねたところ、「意思決定のやり方がトップダウンかそうでないかの感じ方は、教授会の権限の強い・弱いで異なるだろう」とのことであった。

米国の大学の運営方法に対し、ステレオタイプ的に「学長を中心としたトップダウン方式」が主流であり、日本もそれに見習うべきであるという論調がよく見られる。しかし、決して米国の大学はトップダウン一辺倒ではなく、様々な統治形態が取られているということがいえるのではないだろうか。”due process”の重視はまさにその一例である。**Academic capitalism** が「流行」とすれば、伝統的な大学運営は「不易」なのである。米国においては、大学の集権化と分権化の適切な調和が成立しているのかもしれない。図書館の運営についてもそのことはあてはまると思われる。

### 3. むすびにかえて

#### 【成長しつつける米国のライブラリアン】

今回の研修ではありがたいことに各訪問先大学のライブラリアン達が期待以上に快く自館の案内や構想等について時間をかけて丁寧に説明してくれたのが大変印象深かった。

はるばる日本から来た図書館員にたいしてきっと「遠い国で同じような職業のお仲間」と、親近感を覚えてくれたのかどの方も親切に対応してくれた。

また、キャンパス内を案内してくれている途中に、他のライブラリアンや職員達へも気軽に話しかけ我々を紹介してくれると、その方も大学や建物の歴史等を説明してくれた。かなりのベテランライブラリアンの方でも、デジタル化する社会の流れが自分の仕事に影響を与えることを事実として受け止め、**Facebook** を活用するなど、ある意味時代の変化を楽しみながら各々のスタイルで仕事をしているように見えた。

### 【図書館職員の現状】

さて、実際の日本の図書館または図書館員を取り巻く状況はどうであろうか。近年、日本の大学図書館においては、利用者サービスの多様化や、IT ツール対応等の専門化、高度化が求められる一方で、大学経営の見地からは人件費削減が求められ、専任の図書館員数も削減が進んでいる厳しい状況にある。

文部科学省「学術情報基盤実態調査」によると、2000 年度には図書館で働く専任職員は 5,255 人いたが、2010 年度には 3,701 人へと減少した。10 年間で図書館から約 3 割の専任職員が消えていった。

その削減されたマンパワーを補うため、いまや目録遡及入力作業や、休日・夜間等の開館時間の対応等の業務は外部業者へと委託するケースが日常化している。一方こうした業務の切り売りを繰り返すことにより、図書館業務全体を把握する図書館員が少なくなり、業務全般においてスキルの継承が不可能となっている弊害が発生しているのも事実である。

今後、大学図書館が学内においてその存在を単なるハコモノでなく、確固たるものとしてアピールしていくためには、全ての業務レベルを維持し、時代に応じた良質なサービスを提供していかなければ存在意味が薄れてしまう。また図書館業務を経験していない外部からの評価者の目には図書館員の存在価値さえ薄いものに見えてしまうかもしれない。

### 【図書館職員と SD 活動】

90 年代以降に、大学アドミニストレーターという言葉に代表される SD 活動・能力開発が盛んになっているが、それら SD 研修の中においては、図書館に関する課題が議論されることが極めて少ない。その一方で、図書館は、従来から個別大学の枠を超えたネットワークを広く有しており、様々な研修の機会も他部署に比較して少なくない。またそれぞれの研修（研究）活動が組織化され、その成果を発表する多様な資料も発刊されている。

SD 活動と大学図書館を結びつける一つの鍵がラーニングコモンズにあるのではないだろうか。ラーニングコモンズの登場を契機として、図書館の存在意義があらためて再認識されようとしている。学士課程教育の充実と学位の質保証の観点から、図書館はこれまで以上に各教学主体と連携した学習支援機能の充実が求められている。学習成果（ラーニングアウトカムズ）の向上を図るためには、図書館における学習支援体制を強化することが重要な課題として浮上している。さらに図書館が他部署から隔離した存在ではなく、様々な学習支援の連携の拠点として機能していくためには、それぞれの大学のミッションに連動した学習支援空間としての図書館の存在意義を確立することも新たな視点である。

### 【図書館職員の可能性】

では、我々が一図書館員としてできることはなにかあるだろうか。

今回訪問した Mount Holyoke College のディレクターとライブラリアンに、「学生の成長のためにどのような点を心がけていますか？」と質問したところ、「我々は学生の問いに対してすぐに答えを与えているわけではない。釣りにたとえるなら、まずは彼らに釣り具や釣り方を教えているようなものだ。」という回答があった。その時点で学生が望む目先の解答を答えるのではなく、学生達が今後同じような場面に置かれたときに、自分で調査し、考えをまとめ、それぞれの答えを導き出す手法を教えるのだという。

多くの学生は大学を卒業後、一労働者としてそれぞれのステージへと歩いていく。彼ら彼女たちが社会人としてその後何十年間と、活躍するためには、自分なりの情報収集方法、つまり紙媒体、電子媒体等いろいろなツールからの情報を効果的に収集し、分析、解釈をし、自分なりの答えを発信していく能

力を身につけることが必要である。しかも、プレゼンテーション全盛の時代においては、なるべく早期にそういったスキルを身につけた方が本来持っている個性や能力を発揮しやすくなるであろう。

例えばゼミ等の少人数形式授業の際、教室でただ座って何も発言せずに受け身的に授業をこなすのではもったいない。図書館は学生のより自発的な学習を誘導する施設となり、知識、情報を吸収させ、咀嚼し、教員や友人達と言葉を介してお互いに理解を共有しながらつながっていくことをサポートする。または、その「場」を提供し、時には図書館員がなんらかの学習支援に携わることもできる。

そう考えると、一朝一夕に成果を確認することは難しいが、図書館員が個々の学生の成長に対して果たす役割は大きく、在学中に限らず卒業後も見据えた「学習支援」という見地からは我々図書館員個人、図書館組織ができることにはまだまだ余地があるのではないであろうか。

図書館主催の学術系データベース講習会を開催しても出席者はまばらであるが、就職情報活用データベースガイダンスは比較的人气がある。キャリア支援センターや国際交流センターが主催とする行事も内容によっては大盛況な場合もある。館内のより一層のIT化のためには情報基盤センターの協力が不可欠である。

大学図書館はその性質上、毎年繰り返し同じ業務内容を遂行する上では、日常的に学内他部署と積極的に連携する機会は少ない。むしろ、学内他部署の職員よりも外部業者と接する方が多いかもしれない。勤務時間中は図書館の外に出なくても、自分の仕事は無事に終えることができるかもしれないが、今後は学内の教職員一人一人との更なる友好的な関係を構築する努力も必要不可欠なのではないだろうか。

### 【大学職員としての図書館職員】

これまで大学においては、いい意味でも特有の縦割り主義に徹して業務が行われてきたが、今後は図書館単独でサービス内容を充実し提供することには限界がある。むしろ、他部署と連携しお互いが共通の目標を持ち、理解し合いながら協働することでより大きな予算獲得、目的を達成できるのではないだろうか。なによりも学生に「この大学に来てよかった」「図書館で勉強したな」と、実感を持たせることが重要だと思う。

大学図書館の学習支援機能の展開に伴う大学職員の能力開発について、従来からの司書職に代表されるモデルとともに、大学職員としての役割に主眼を置いた検討も必要になってきているのではないだろうか。UMASSにも **Administrative Office** があり、その部署では図書館の管理的業務がなされている。館内を案内して頂いた際にその **Office** の前で、**Ms. Domier** が「私たちは用事がある時以外は、ここには来ません」とふと話されたことがあり、ライブラリアンと管理スタッフの職制の違いを認識させられることがあった。あらためて考えてみると、日本の大学図書館職員の大半は、米国でいうところの **Administrative Office** の職員の役割を担っていることが多いような気がする。今回の研修では米国図書館のライブラリアンとの人的交流が中心であったが、今後は併せて **Administrative staff** との業務交流も研修の主要課題となるのではないかと思われた。そのような交流をとおして、日本の私立大学における図書館職員の職制の新たな展開の糸口が掴めるかもしれない。

### 【“The Heart of a University”】

米国の大学には、図書館が“**The Heart of a University**” = “大学の心臓部”として、定着している土台がある。事実として、立地的にも誰でもアクセスしやすいキャンパスの中央に位置し、校章にもしばしば本のマークが取り入れられている。

環境や歴史等日米の差を挙げればきりが無いが、図書館が利用者、特に学生に対して学習をする「場」を提供するという事は万国共通である。実際、館長をはじめ職員にも人事異動があり、長期的なプランは策定しにくい状況にあるが、大学や図書館、学生を思う志は引き継がれる。過去や建前がどうであれ、大学図書館は、大学内においてもっとも学術情報が集積されている拠点であり、ここで知的な生産が行われ、学生、教職員の活発な往来や出会いがありうる場所ということを再度認識し、未来永劫的に発展してほしいと願う。

#### 4. 謝辞

今回の研修におきましては、私立大学図書館協会をはじめ、国際図書館協力委員会事務局関係者のみなさまのご尽力により我々8名は期待以上の有意義なプログラムを体験できました。

この重要な経験と人的交流は今後我々の図書館職員人生にとって大きな糧となることと存じます。貴重な機会をいただいたことを心より感謝を申し上げます。

また、現地では不慣れな我々に心を砕き、快く様々な調整役を引き受けてくださったライブラリアン Ms. Sharon Domier ならびに各大学関係者にお礼を申し上げます。皆さま、ありがとうございました。

<各訪問先の図書館 URL とお世話になった方々>

##### 【現地コーディネーター】

Ms. Sharon Domier / East Asian Studies Librarian, University of Massachusetts Amherst

##### 【University of Massachusetts Amherst】

URL <http://www.library.umass.edu/>

Mr. Jay Schafer / Director of Libraries

Ms. Sarah C. Hutton / Head, Undergraduate Teaching and Learning Service

Ms. Carol Will / Coordinator, Learning Commons

##### 【Amherst College】

URL <https://www.amherst.edu/library/>

Ms. Missy Roser / Head of Research and Instruction

Mr. Michael Kasper / Reference Librarian/Collection Development Coordinator

##### 【Mount Holyoke College】

URL <http://www.mtholyoke.edu/lits/find/index.html>

Mr. Alex Wirth-Cauchon / Director of Research and Instructional Support

Mr. Bryan Goodwin / Reference Librarian

##### 【Smith College】

URL <http://www.smith.edu/libraries/>

Mr. Christopher Loring / Director of Libraries

Ms. Pamela A. Skinner / Reference Electronic Resources Librarian

Mr. Martin Antonetti / Lecturer in Art & Curator of Rare Books

Ms. Barbara Kellum / Professor of Art

##### 【Dartmouth College】

URL <http://library.dartmouth.edu/>

Mr. Jeffrey Horrell / Dean of Libraries and Librarian of the College

Ms. Cynthia Pawlek / Deputy Librarian of the College and Associate Librarian for User Services

Ms. Elizabeth Kirk / Associate Librarian for Information Resources

Mr. David Seaman / Associate Librarian for Information Management

Ms. Lora Thompson / Director of Management Services

Mr. Anthony Helm / Head of Digital Media and library Technologies

Ms. Nien Lin Xie / Asian Studies Librarian

#### 【Harvard University】

URL <http://hul.harvard.edu/>

URL <http://hcl.harvard.edu/libraries/widener/>

URL <http://hcl.harvard.edu/libraries/lamont/>

URL <http://hcl.harvard.edu/libraries/harvard-yenching/>

Ms. Pamela J. Matz / Research Librarian

Mr. Martin Schreiner / Head of Maps, Media, Data, and Government Information

Mr. Reed Lowrie / Science Reference and Cartographic Librarian

本宿マリ子さん / Librarian For Japanese Law

Ms. Victoria Lyon Bestor / NCC（北米日本研究資料調整協議会） Executive Director

大畑巧さん / NCC（北米日本研究資料調整協議会）バイリンガルアソシエイト

勝見道子さん / Japanese Cataloger

久下榮司さん / Interlibrary Loan Services

#### 【Boston College】

URL <http://www.bc.edu/libraries/>

Ms. Adeane Bregman / Interim Head Research and Engagement Service

#### 【Massachusetts Institute of Technology(MIT)】

URL <http://libraries.mit.edu/>

Ms. Anita Perkins / Reference Coordinator



## 5. アンケート集計結果

【様式 1】 配布アンケート用紙

【様式 2】 アンケート集計結果

アンケート実施計画に基づき、訪問大学において図書館利用について調査を行った。  
各訪問大学におけるアンケート実施の有無と回収状況は以下のとおり。

① **University of Massachusetts Amherst(UMASS) :**

事前許可を得た上で、12月5日研修終了後、再度図書館訪問。  
研修参加者にて約1時間半(20:00~21:30)任意でインタビュー(配布)を実施した。  
当日、回収107名。帰国後、集約。

② **Amherst College :**

大学預かりにて許可が出た場合、後日実施、送付いただく。  
回収28名。帰国後、1月6日受理、集約。

③ **Mount Holyoke College :**

大学預かりにて許可が出た場合、後日実施、送付いただく。  
回収21名。帰国後、2月6日受理、集約。

④ **Smith College :**

館長としては、学生がどのように図書館を利用しているのかに興味を持っていたが、  
これまで大学として学生対象に利用者アンケートを行ったことがない。  
検討するとのことであったが実施不可。

⑤ **Dartmouth College :**

実施不可。

⑥ **Harvard University :**

実施不可。

⑦ **Boston College :**

大学預かりにて許可が出た場合、後日実施、送付いただく。  
大学の方針で実施不可。

## Questionnaire on Library Users in the U.S

We are librarians from the Japan Association of Private University Libraries. During our stay in the U.S. for a week, we are exploring US university libraries. Although it is a short stay, we would like to know how US students use and think about libraries. We made a short questionnaire, and we would appreciate it if you could share a couple of minutes to fill out the items below. After completing this questionnaire, you will receive a small gift from our association.

- Q1. You are...     under graduate (science course)  
                         under graduate (liberal arts course)  
                         graduate                             professor  
                         other

Q2. How do you use library?

2-1. Frequency of library use

- almost everyday   2-3 times a week   2-3 times a month  
for exam preparation only

2-2. I go to the library mainly on ...

- weekdays   Saturdays   Sundays   at random

2-3. I stay at the library mainly in ...

- the morning   the daytime   the evening   the nighttime

2-4. How long do you usually stay in the library?

- less than 30min.   30-60min.   1-3hours   3-5hours  
more than 5hours

Q3. How do you study for class assignments, and review and prepare for your classes?

(multiple answers allowed)

- learn alone at (my home, the library)  
learn with my friends at (                             )  
ask my friends  
ask my professors or librarians

Q4. Which kind of services or equipment do you usually use?

(multiple answers allowed)

- books or magazines at the library  
EJ(Electronic Journal) or EB(Electronic Book)   DB(Database)  
reference services   help desk   writing center  
study group area   PCs

Please turn over...



Q5. Please choose what you think is necessary when you are in the study group area.

(multiple answers allowed)

Equipment

- movable desks and chairs    large projector screen    note PCs  
whiteboard    printer    scanner

Materials

- text books    reference books    journals  
EJ(Electronic Journal) or EB(Electronic Book)    DB(Database)

Services

- learning support by librarians  
learning support by professors  
learning support by knowledgeable students (graduate students)

Q6. What kind of skills or knowledge can you obtain by using library services and equipment?

(multiple answers allowed)

- general education knowledge    special knowledge of your major  
ability to locate necessary information  
ability to think critically    ability to discuss with others  
ability to cooperate with others  
other (skills, qualifications and abilities not mentioned above)

Q7. Please answer the following questions. (free description)

7-1. What are libraries or librarians for you?

7-2. What kind of library services do you need in the future?

Thank you very much of your time

【様式 2】 アンケート集計結果

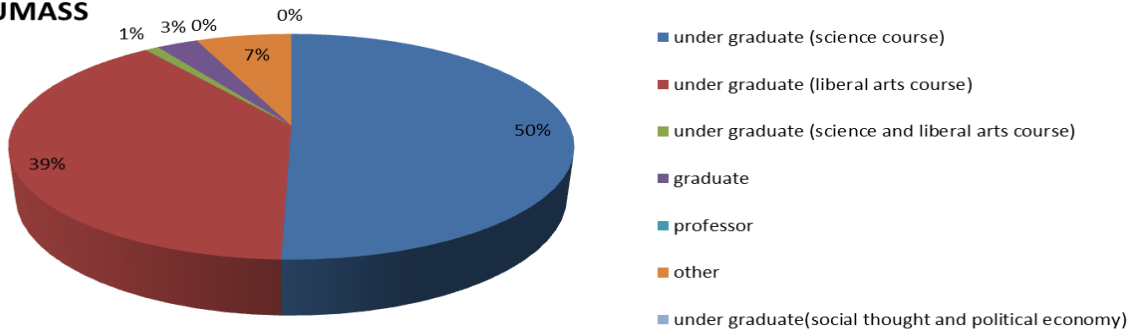
Questionnaire on Library Users in the U.S.

University of Massachusetts Amherst , Amherst College and Mt.Holyoke College

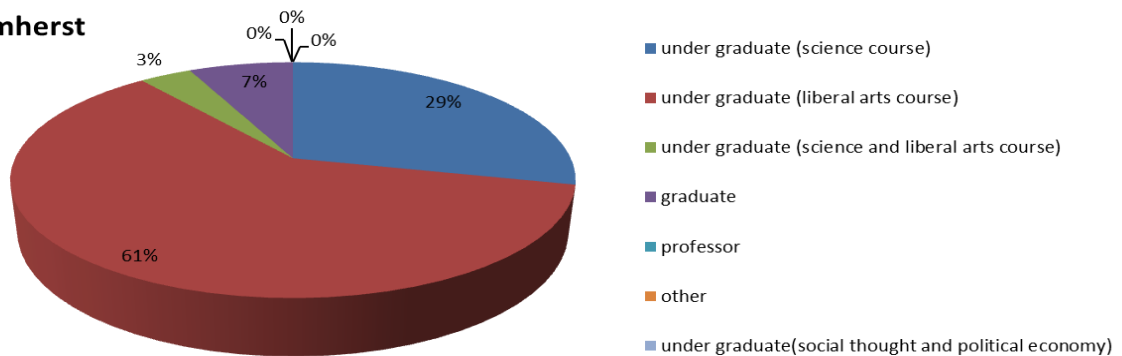
Q1. You are...

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
under graduate (science course)	54	8	3
under graduate (liberal arts course)	42	17	18
under graduate (science and liberal arts course)	1	1	0
Graduate	3	2	0
Professor	0	0	0
Other	7	0	0
under graduate(social thought and political economy)	0	0	0
<b>Total</b>	<b>107</b>	<b>28</b>	<b>21</b>

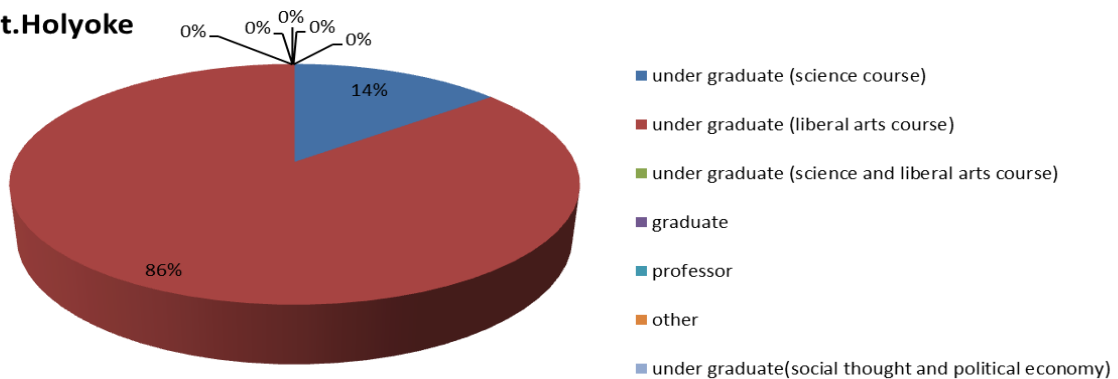
Q1:UMASS



Q1:Amherst



Q1:Mt.Holyoke

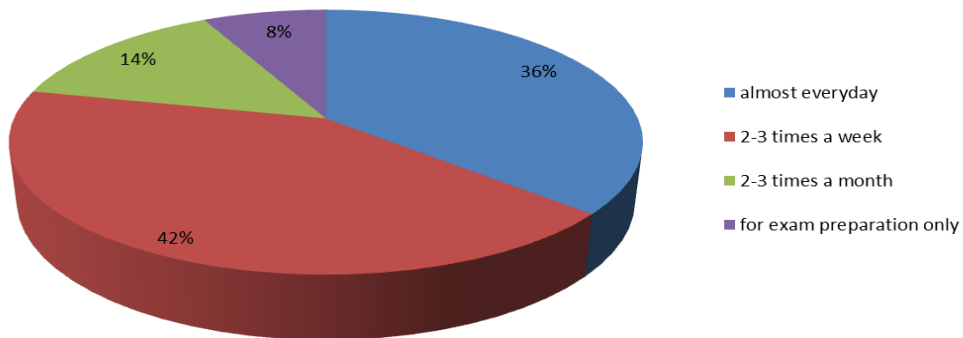


Q2. How do you use library?

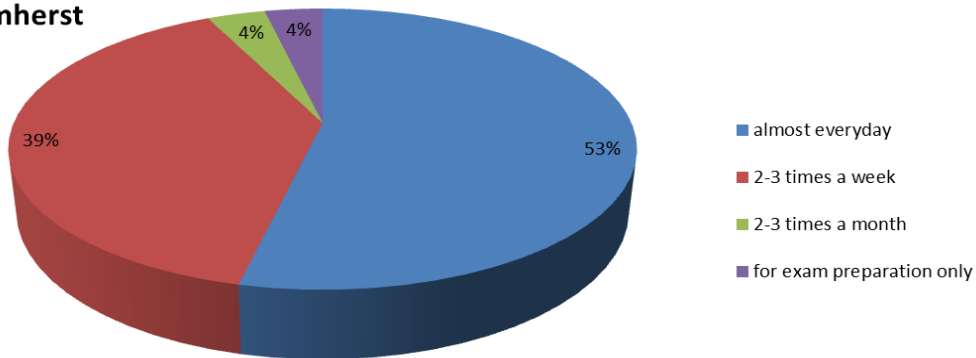
2-1. Frequency of library use

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
almost everyday	39	15	13
2-3 times a week	45	11	7
2-3 times a month	15	1	1
for exam preparation only	8	1	0
<b>Total</b>	<b>107</b>	<b>28</b>	<b>21</b>

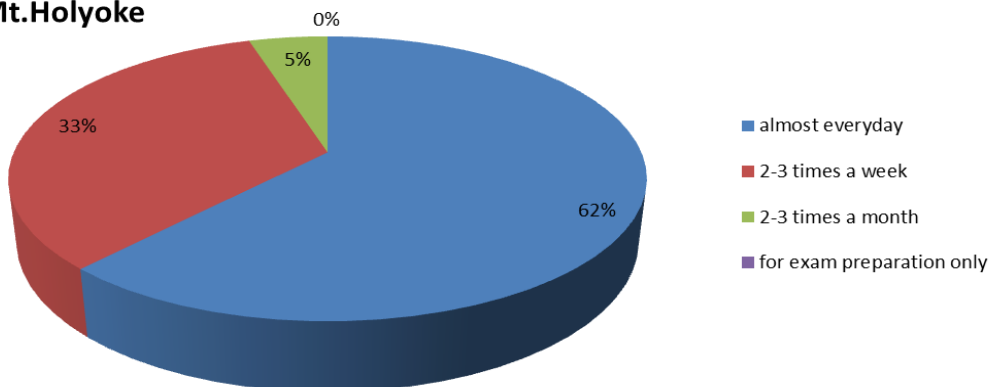
**Q2-1 : UMASS**



**Q2-1:Amherst**

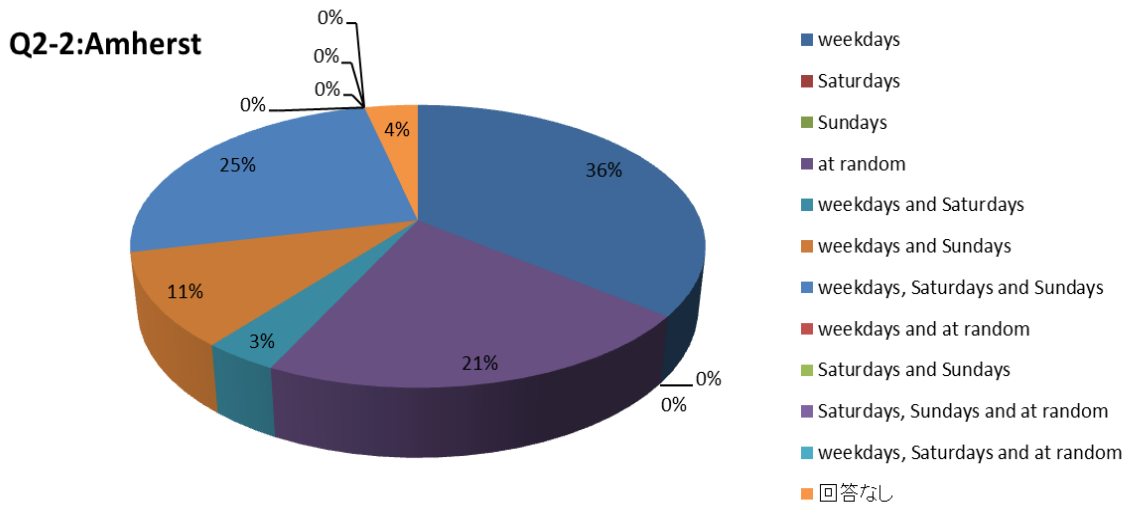
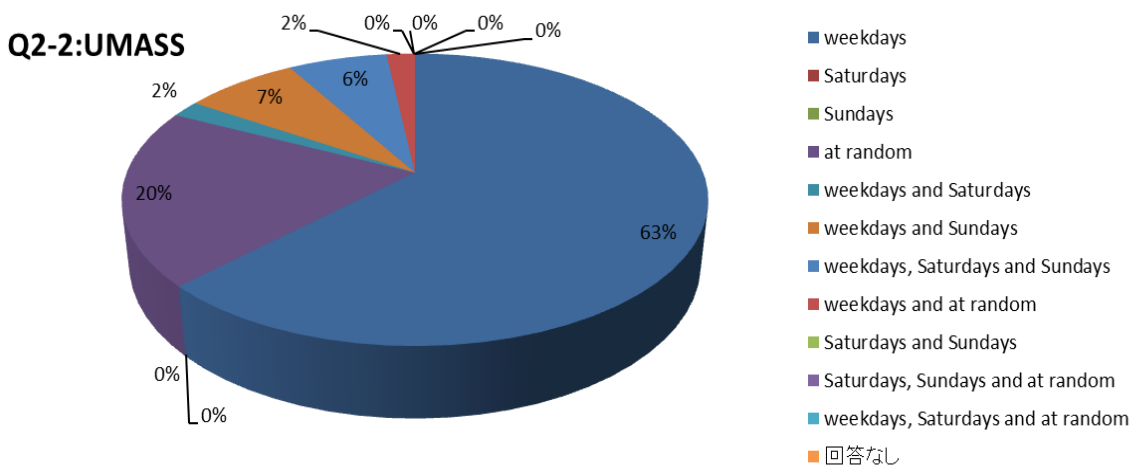


**Q2-1 : Mt.Holyoke**

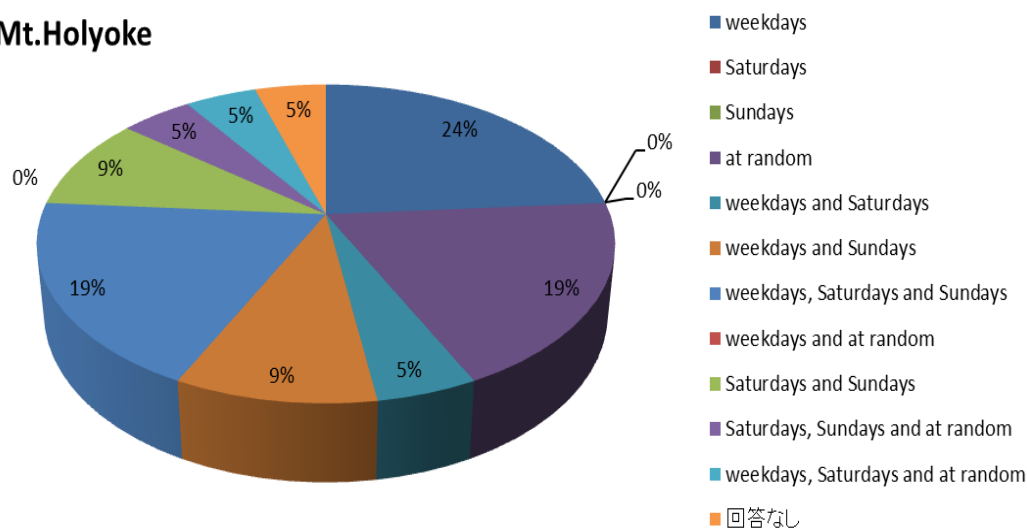


2-2. I go to the library mainly on ...

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
weekdays	67	10	5
Saturdays	0	0	0
Sundays	0	0	0
at random	21	6	4
weekdays and Saturdays	2	1	1
weekdays and Sundays	8	3	2
weekdays, Saturdays and Sundays	7	7	4
weekdays and at random	2	0	0
Saturdays and Sundays	0	0	2
Saturdays, Sundays and at random	0	0	1
weekdays, Saturdays and at random	0	0	1
回答なし	0	1	1
<b>Total</b>	<b>107</b>	<b>28</b>	<b>21</b>



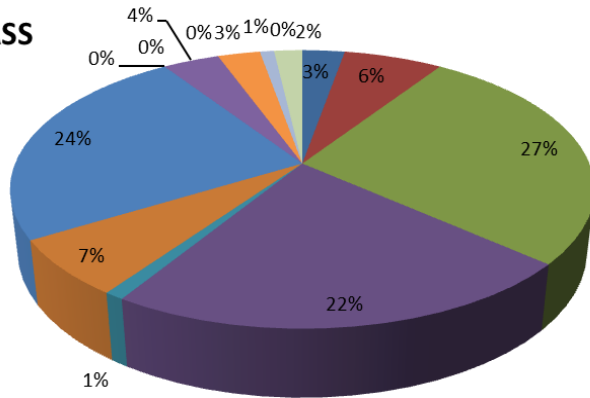
### Q2-2: Mt.Holyoke



### 2-3. I stay at the library mainly in ...

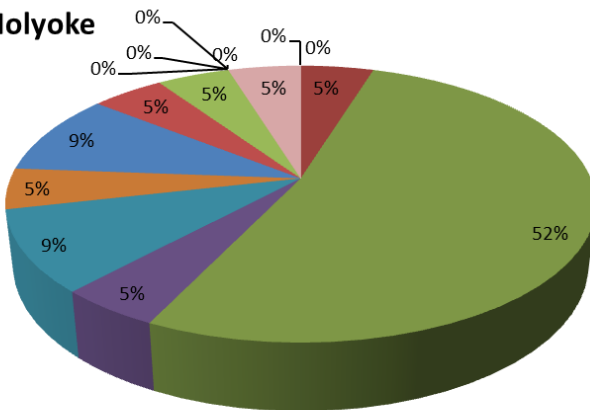
	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
the morning	3	1	0
the daytime	7	6	1
the evening	29	4	11
the nighttime	24	3	1
the morning and daytime	1	0	2
the daytime and evening	7	3	1
the evening and nighttime	26	7	2
the nighttime and morning	0	0	1
the morning, daytime and evening	0	1	1
the daytime, evening and nighttime	4	2	0
the evening, nighttime and morning	0	1	0
all	3	0	0
the daytime, and nighttime	1	0	0
the morning, daytime and nighttime	0	0	1
空白	2	0	0
<b>Total</b>	<b>107</b>	<b>28</b>	<b>21</b>

**Q2-3:UMASS**



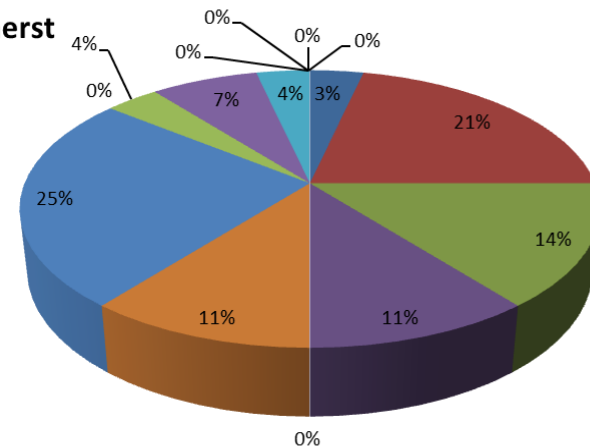
- the morning
- the daytime
- the evening
- the nighttime
- the morning and daytime
- the daytime and evening
- the evening and nighttime
- the nighttime and morning
- the morning, daytime and evening
- the daytime, evening and nighttime
- the evening, nighttime and morning
- all
- the daytime, and nighttime
- the morning, daytime and nighttime
- 空白

**Q2-3 : Mt.Holyoke**



- the morning
- the daytime
- the evening
- the nighttime
- the morning and daytime
- the daytime and evening
- the evening and nighttime
- the nighttime and morning
- the morning, daytime and evening
- the daytime, evening and nighttime
- the evening, nighttime and morning
- all
- the daytime, and nighttime
- the morning, daytime and nighttime
- 空白

**Q2-3 : Amherst**



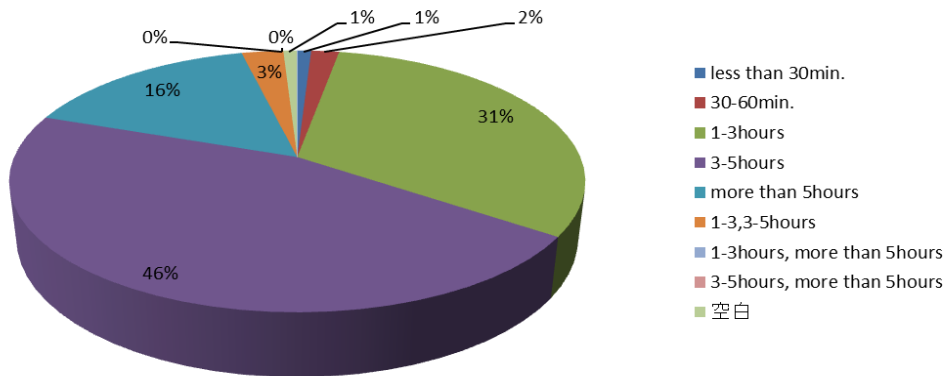
- the morning
- the daytime
- the evening
- the nighttime
- the morning and daytime
- the daytime and evening
- the evening and nighttime
- the nighttime and morning
- the morning, daytime and evening
- the daytime, evening and nighttime
- the evening, nighttime and morning
- all
- the daytime, and nighttime
- the morning, daytime and nighttime
- 空白

2-4. How long do you usually stay in the library?

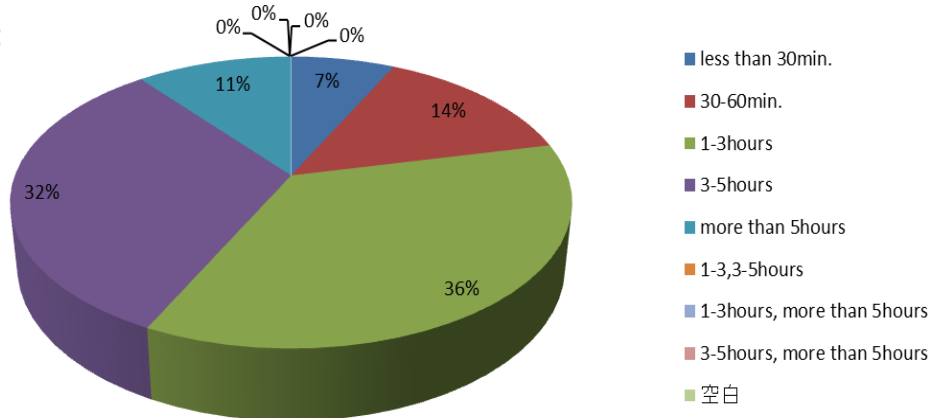
	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
less than 30min.	1	2	0
30-60min.	2	4	2
1-3hours	34	10	11
3-5hours	49	9	3
more than 5hours	17	3	0
1-3,3-5hours	3	0	2

1-3hours, more than 5hours	0	0	1
3-5hours, more than 5hours	0	0	1
空白	1	0	1
<b>Total</b>	<b>106</b>	<b>28</b>	<b>21</b>

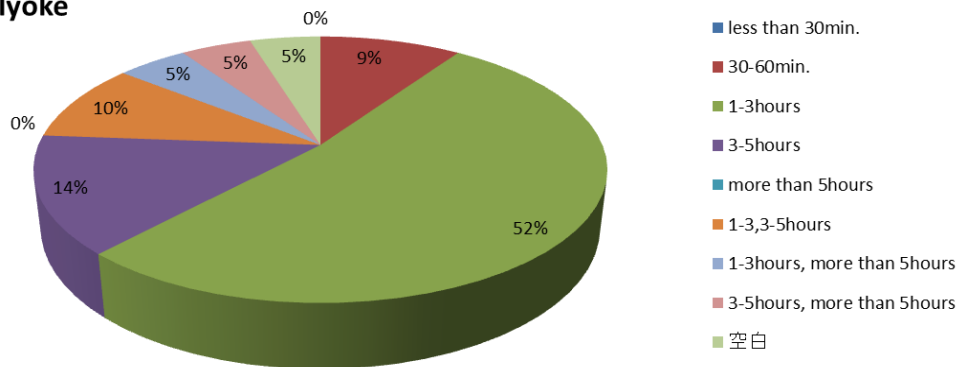
**Q2-4:UMASS**



**Q2-4:Amherst**



**Q2-4:Mt.Holyoke**

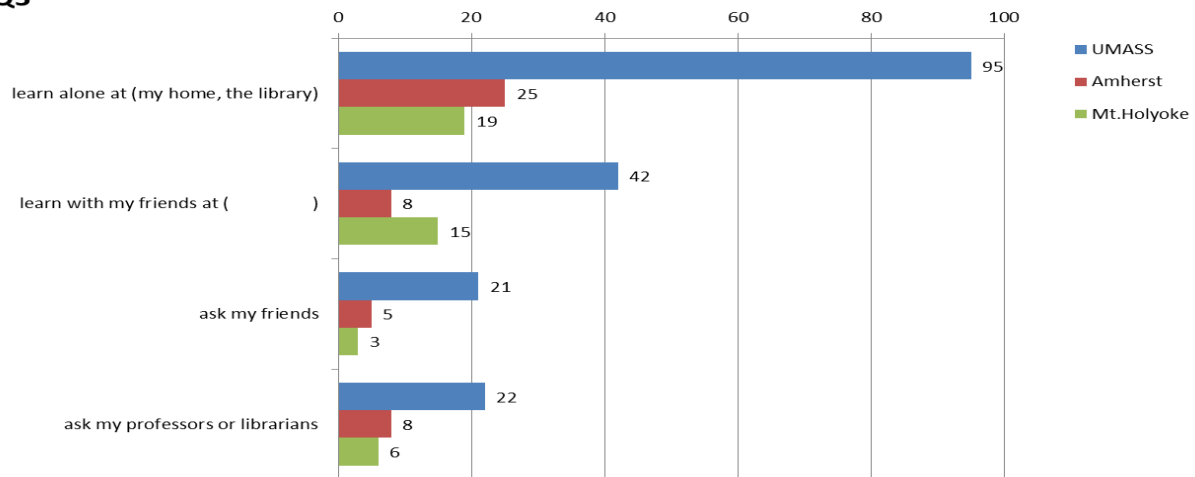


Q3. How do you study for class assignments, and review and prepare for your classes?

(multiple answers allowed)

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
learn alone at (my home, the library)	95	25	19
learn with my friends at ( )	42	8	15
ask my friends	21	5	3
ask my professors or librarians	22	8	6
<b>Total</b>	<b>180</b>	<b>46</b>	<b>43</b>

**Q3**



\*\*\*learn with my friends at ...

	UMASS	Amherst	Mt. Holyoke
dorms, home	1	3	0
their houses	1	0	0
someone's dorm	1	0	0
Library	21	1	14
library, ISB	1	0	0
Dorms	2	0	0
Google	1	0	0
home, library	1	0	0
common spaces	0	0	1
回答なし	0	4	0

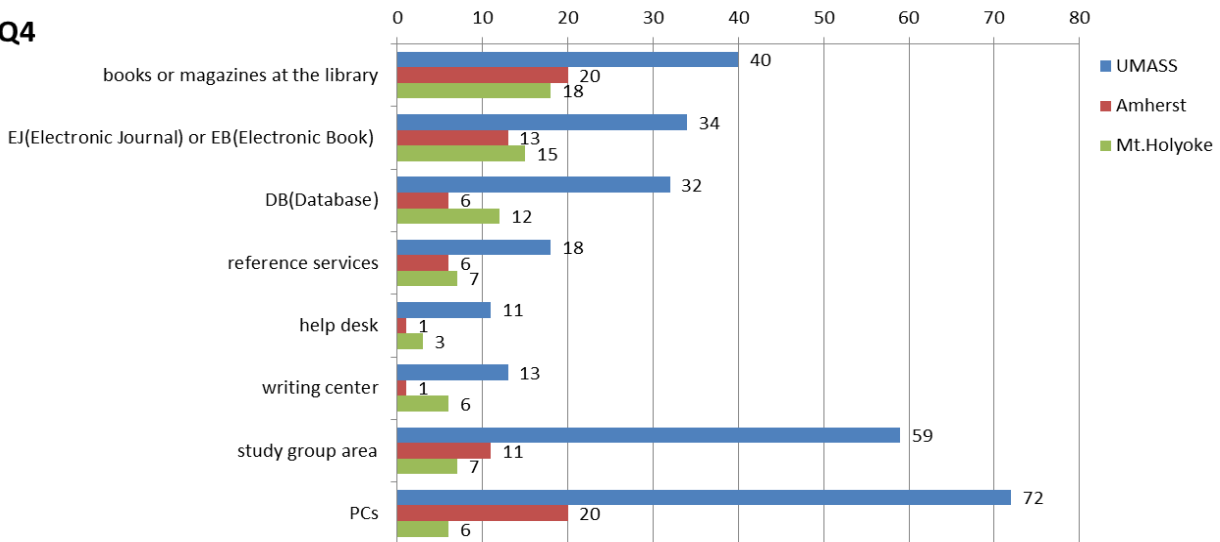
**Q4. Which kind of services or equipment do you usually use?**

(multiple answers allowed)

	UMASS	Amherst	Mt. Holyoke
books or magazines at the library	40	20	18
EJ(Electronic Journal) or EB(Electronic Book)	34	13	15
DB(Database)	32	6	12
reference services	18	6	7
help desk	11	1	3
writing center	13	1	6
study group area	59	11	7
PCs	72	20	6
<b>Total</b>	<b>279</b>	<b>78</b>	<b>74</b>



**Q4**

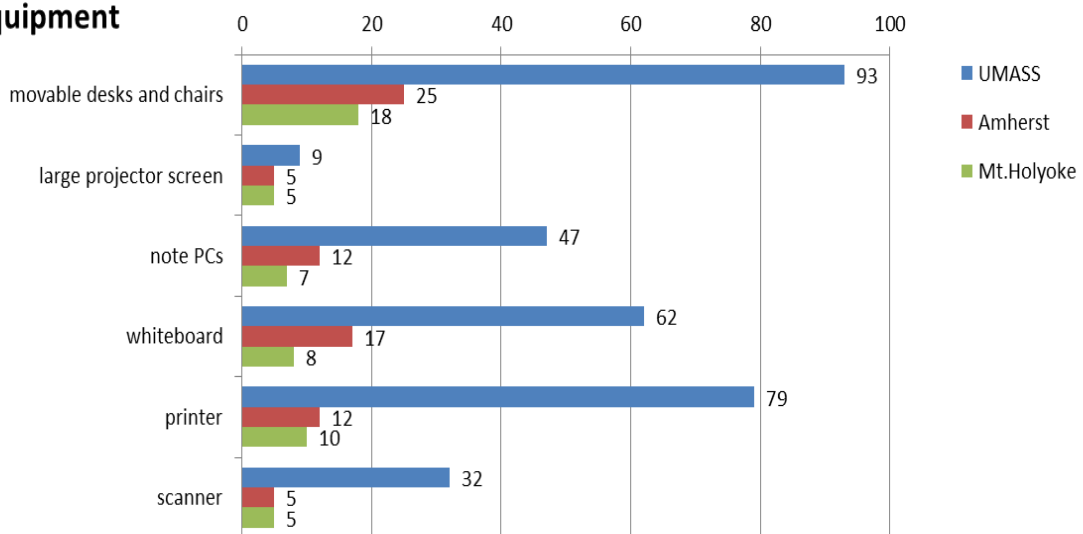


Q5. Please choose what you think is necessary when you are in the study group area.  
(multiple answers allowed)

**■ Equipment**

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
movable desks and chairs	93	25	18
large projector screen	9	5	5
note PCs	47	12	7
Whiteboard	62	17	8
Printer	79	12	10
Scanner	32	5	5
<b>Total</b>	<b>322</b>	<b>76</b>	<b>53</b>

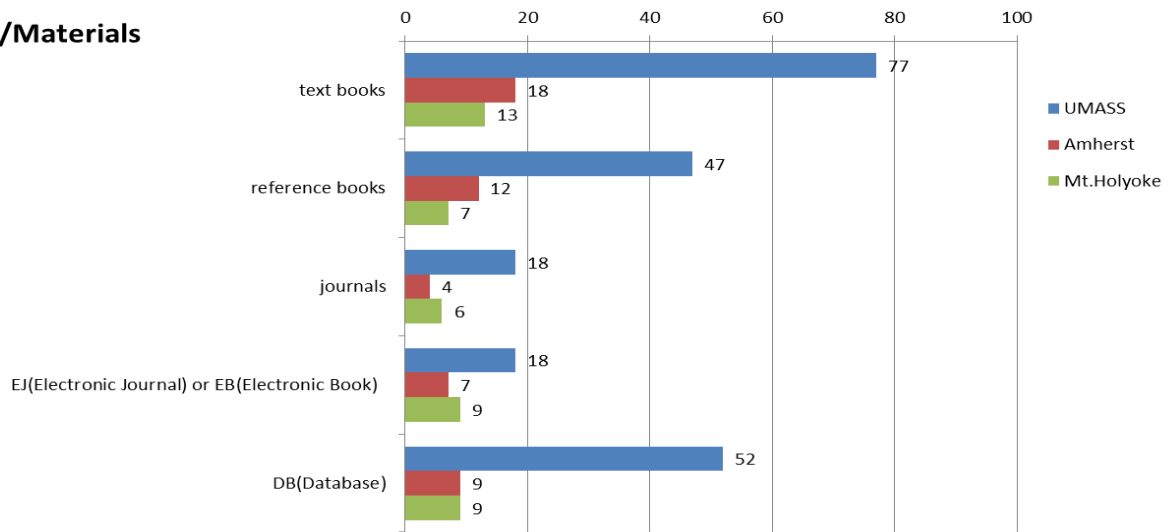
**Q5/Equipment**



■ Materials

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
text books	77	18	13
reference books	47	12	7
journals	18	4	6
EJ(Electronic Journal) or EB(Electronic Book)	18	7	9
DB(Database)	52	9	9
<b>Total</b>	<b>212</b>	<b>50</b>	<b>44</b>

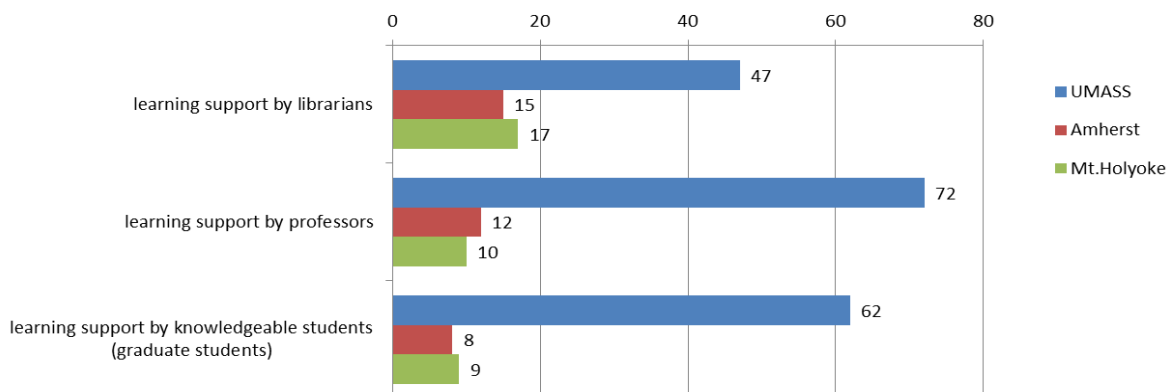
Q5/Materials



■ Services

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
learning support by librarians	47	15	17
learning support by professors	72	12	10
learning support by knowledgeable students (graduate students)	62	8	9
<b>Total</b>	<b>181</b>	<b>35</b>	<b>36</b>

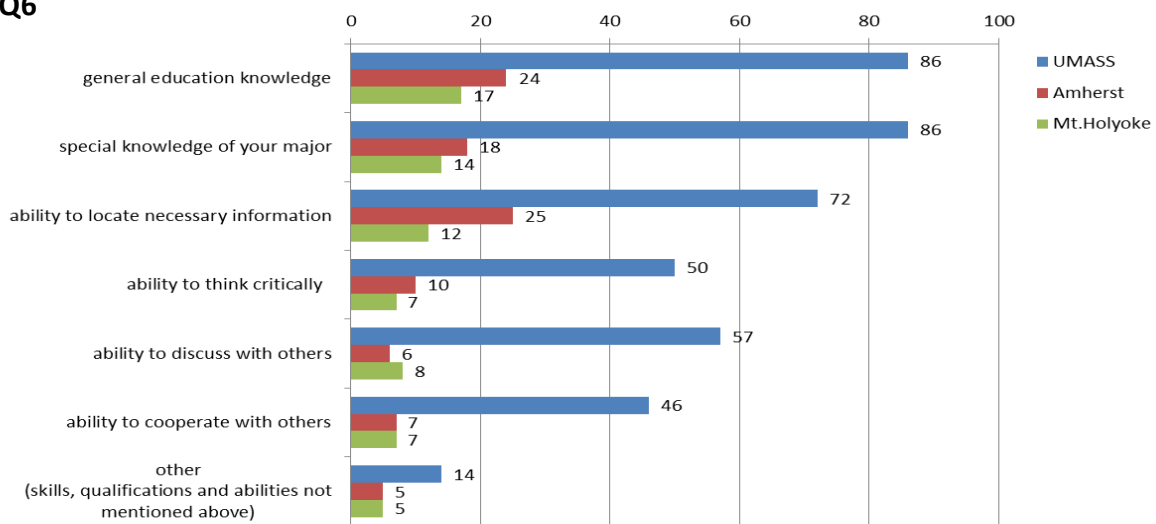
Q5/Services



Q6. What kind of skills or knowledge can you obtain by using library services and equipment?  
(multiple answers allowed)

	UMASS	Amherst	Mt.Holyoke
general education knowledge	86	24	17
special knowledge of your major	86	18	14
ability to locate necessary information	72	25	12
ability to think critically	50	10	7
ability to discuss with others	57	6	8
ability to cooperate with others	46	7	7
other (skills, qualifications and abilities not mentioned above)	14	5	5
<b>Total</b>	<b>411</b>	<b>95</b>	<b>70</b>

Q6



Q7. Please answer the following questions. (free description)

7-1. What are libraries or librarians for you?

【University of Massachusetts Amherst】

Libraries are institutions that allow students like myself to get access to reference materials needed to complete course work. They allow me to have a quiet space to study and work with friends on school work!
A place to study and stay focused
People who can give information about library when I need
A place to do research, write papers. Do group assignments
common place to meet up with classmates on group projects.
A place to concentrate without distractions and a nice environment
Places where focus most
places to find information more reliable than the internet, and places to focus on work without

distraction
a place to study where I'm less likely to be distracted
libraries allow me a place to focus on my school work without all of the distractions that I may find elsewhere, great learning environment to zone in and get a lot of work done
place for information and free books
libraries are places where I can go to study
The library allows me to get away from other distraction and focus and do my work
a librarian to me is someone who can help me narrow my search for information
a quiet place where I can concentrate and get work alone
a place to go as oppose to studying in my dorm
They help us research and find sources for us
place to do work
libraries are ways for me to focus on specifically my work
libraries are place for me to go to have quiet and zero distractions so I can get work done,
a place for peace and quiet as well as uninterrupted work
They help me with finding information that I can't find on my own. They also assist with the use of Databases
libraries offer a place where I can focus with many available resources.
Libraries are places to quietly work and study, alone or with a group. Librarians help students use the library to their an advantage
A place to quietly focus and do work
Librarians / librarians are research resources available to help me succeed in presentation / paper assignments and general knowledge inquiries
A place to go to work efficiently
helpful tools to help me learn more
helpful and informed
A place where computers are
A library is a place that encourages academic atmospheres (quiet, studios, leaning proactive) and which allow students to meet with others to do work. I LOVE THE LIBRARY!
sometimes help locating books I can't find
Libraries are places that allow us to study, to discuss with friends and to gain knowledge by borrowing books.
Vital institutions in our education, convenient
resources ancillary supplement to courses
a helpful and quiet place to get work done
Resources
※意味のない 2 文字
Helpful
A resource that is vital to educating oneself

Person skilled in locating library materials and able to end users in its access.
They are staff of the library who are there to help you locate books or find anything you many need at the library
A place to do work and study with access to resources
The library is where I go to focus and study. I do not usually ask librarians for help.
A quiet place to go to study and learn or do work without interruptions. A good atmosphere.
source or help
At the library I can find a quiet place to study as well as books with information and specific research I might not find on the internet
a good resource for research papers
They help me study and find books
good place to work with quiet and materials I need
a life saver
I typically don't communicate with librarians.
I use them for help with assignments and completing them.
Quiet place to study.
The library is a quiet place for me to concentrate.
A place to study quietly or with a group of friends.
People that help you find books and such.
Very helpful resources. Librarians aren't looked to enough as a resource(especially subject librarians)
A place to study, I don't usually ask librarians for anything.
A commonplace for all students trying to exceed in different levels at school.
Libraries are places with a lot of books that are free to read and use, especially reference books. They also have plenty of free space to work in groups.
A place to study and do work.
A quiet place to get work done and learn about new topics.
A very fan place to be & learn about anything you want. Librarians are very helpful people who control the power!
Libraries are places where I study or hang there if I'm waiting for somebody.
A place to focus on my studies, and have all of the resources available to do research/homework/and studying.
Place to study and meet friends.
Libraries are awesome!!!
A place with an environment that is conducive to studying & learning.
Place/people to help me learn
I do not use them.
Libraries are establishments devoted to the mind that hungers for knowledge. A concentration of information for the inquisitive to tap into.

A quiet place to do homework + study.
A place to study.
Temples of knowledge!
A place to sit down and focus well to get all my homework done. A temple of knowledge and great power.
Temple of knowledge! A place where you can obtain knowledge regarding the information you are seeking.
A place to study
A place to get work done.
A resource and place to study/ review class materials.
A quiet place where I can study.
Something or someone to help me get my work done.
Libraries are great for a quiet place to study and a great resource center for information. Librarians help me find everything I need.
They're people I contact when I need a book put on hold or if I need help locating a book.
I don't really use the librarians - librarians to check out a laptop/books or reference desk
A place to concentration, and full of resources.
Resource to enhance my studies
Good place to quietly study.
Place to study seriously.
They're a really good place for me to focus and study. Whenever I need a group project to be done, I always go the library because it's open almost all the time and there is always space.
Libraries are an area in which to study and review for tests.
Study time, research
They are people who I seek out when I need more information about a topic.
A place to find myself free to do work with less distractions.
I don't communicate much with them.
Sources to information; a place to concentrate.
Libraries are a place to go and do your work with fewer distractions. Because everyone is working or intending or working on school work the environment gets me focused.
Place to do work - quiet setting.
Reference points.
Place to get books + study.

**【Amherst college】**

Librarians are helpful in finding Books and conducting research.
Angels of happiness
just there
Libraries are a wonderful meeting place to do work and study. They are very useful as a place of

information (especially books!) peaceful and relaxed, they are an ideal place to do work.
Facilitators of the building
help for locating materials
libraries are storehouses on knowledge.
libraries→ Places to work other than home, quiet
librarians→ help find things / check things out
A quiet, engaging space. Quiet but bringing all knowledge. A place to be explored both randomly and specifically. And most importantly, a place to find the books and movies I want!
I've always loved reading, so I have a special place in my heart for libraries. It's a good place to read a good book, do work, or meet with a study group.
Great sources of information
Libraries are places to study and find extra academic resources; Librarians are helpful personnels who provide help navigating the resources available in the library system.
Useful, quiet places to read and do research
A resource to help with research
They help me to start projects or find resources
Reference help
Knowledge resources.
a place to study, do research, and be productive.
My place of employment & good study space
Source of resource
librarians are very helpful when you wish to find materials that are difficult to find
Initially, they were places where I went to get a specific type of information. Now, after 3 years of college, I see them as a start-point for any research as well as a peaceful environment to study in.
Knowledge, full of resources and skills, helpful in locating references
A quiet space for me to focus and productive.
A place achieve I can attempt to focus away from the distractions of my dorm!
Places to think and get work done. Librarians are good resources to help me do so.

**【Mt. Holyoke College】**

Great resources for academic work! I love the film collection and media resources here as well!
Libraries / Librarians are a source of knowledge + assistance in accessing information.
They are people who can help use our resources in the best way possible
study space, study group space, research resource
Librarians are the key to my academic success. I use library to study and to find book to read for fun.
thinking spaces / working space

A wonderful and free resource that helps me obtain knowledge and fun
Learnings
Learning
Research librarians are good to me. Besides, library is the study zone.
Places where it is always time to study / be practice
A library is a place where I can study and use library resources
Libraries are places where I can think freely and organize my thoughts libraries are warm places for studying and reading. Librarians are friendly and want to help.
For me a libraries is a place to do research, librarians help me do research
Libraries are centers of education. It is a lot more than simply a place for books, the library is where students can go help with research. Librarians are people that can direct students to the proper place for a book or media equipment.
a resource for inquires not just to do with the library but general questions etc...help with research
Friends
a place to focus on my work
A great resource to help guide my research. Additionally, at MHC they create a great culture of leaning and passion for studies!

7-2. What kind of library services do you need in the future?

**【University of Massachusetts Amherst】**

service that helps you find relevant articles for a paper would be very helpful!
More computers
DB, PC
Computers
More cubicles
The same kind
Computers
Same
internet is the most important, also having the text books in the library would be very helpful. And also assistance from other students.
just pleasure read?
printers, group study areas, computers, tutoring centers
our library has everything I need in order to succeed in my studies
more desks and group areas
computer access



more computers available for access
I need a place where I can find anything that can help me learn more about my topic of interest
in the future I will probably use the tutoring center to help me with my classes
quiet, accessible, data, space
More study rooms!
I find it helpful to have books on reserve and computers available
More desk space
More computers to use
access to online journals
a quiet place with computers
More physical space. The library gets very full.
computers and group work space
more coffee
cross-library cooperation and book loan
I think I need more private study areas and more inter-library loans services in the future.
more quiet spaces and comfortable chairs for reading
reference database help access to collection
quiet place to work
class books and free printing
Computers
None
Just to have one available at the times
Access to journals and scholarly books of high quality.
Coffee station, small study rooms.
more space to study, often take 15 minutes to find a table when its busy
More space and more designated "Quiet Floors"! スマイルの絵
computers and printers
what is already provided
professors and graduate students available for tutoring
computer and printer
better way to find textbooks
net, DB, journal
None. I think our library has very adequate resources.
Computers and a quiet place to study.
More group tutoring from TNS.
PC's, books of lend.
More comfy chairs.
More access to knowledgeable librarians.
More table space.

Cheaper printing...
A quiet place to study, with room to work with others.
More digital library.
Books and electronic journals are the most helpful.
computers, scanners, reference librarians, Spanish tutors
I utilize every service the library has to offer.
The most valuable library services for me are online journal and research databases. I will need these in the future.
Computers and library books.
More quiet study/private desks and PRINTERS!
Sometimes I need help finding a certain book or choosing a research topic.
More work space - it gets very crowded.
Just books and computers.
Nothing special...just a place to obtain knowledge :)
Computers
Beds for students to take naps.
Beds/nap area
Beds would be helpful! Students need rest during exams and need to rest.
most modern technology
Quiet study (group) rooms.
Printers
None. I think our library has very adequate resources.
Laptops to rent
More resources for higher level courses.
Increasing access to online journals.
More space.
I wish they were also open 24 hours in the weekends. Other than that, I think the way it is good.
Some just like this one where it is quiet.
Study areas, PCs, printers
More computers and whiteboards. Also all my books from class available in the library.
Research purposes.
More desktops because they are always occupied.
Not sure.
Lots of work space.
Quiet, collaborative space, whiteboard, computer(sometimes)
Free laptops

**【Amherst college】**

I would like to see the library open later
The computers center while helpful is small and lacks the resources frosh does.
More time in the library
Reference material as well as information on all difficult subject areas. Also fiction books. Ability to print, go online, etc.
More space to study in
<ul style="list-style-type: none"> <li>•help finding sauces.</li> <li>•Study space.</li> <li>•Quiet heating.</li> <li>•Well lighted space.</li> </ul>
Better online navigation of data/listing.
I'd like to be able to renew DVD rentals online
The same - free access to movies + books + journals.
I'm going to be a senior next year, so definitely anything that call help me with my thesis. I also appreciate a good fiction section inter? library system.
Please move the printer in the computer Lab. They are Loud and distracting!
More group study rooms.
Good more libraries system
More journal subscriptions.
I would like to see the libraries opened later; Like more students I find the library an excellent area to study and an disappointed at it's earlier closing time compare to MHC* and umass.
Extended hours of operation
General research help & study space
More access to E-books
Easier way of finding relevant material.
Reference, access to online journals and databases, the physical space to study in.
More collaborative spaces and a café
More printers, Study areas, and PCs
longer hours!
PC access, comfortable study spaces inviting atmosphere.
*Mount Holyoke College?

**【Mt. Holyoke College】**

N/A
More e-book readers
None that I can think ok
Media equipment and books
I think still computers

More books. more inter-library loan.
Probably research help and help with programs
I need more newspapers in foreign languages so that when I study them it is easier to practice.
more DVDs + audio books
More study rooms would be excellent. I also think that the library should have more electric sources, so that students can access books that available in hardcopy.
screening rooms (media) more quiet group study spaces
Printers
Computers
Research help, media equipment, books, friendship, use of study space